

令和3年度

学校評価アンケート

結果報告

杉並区立天沼小学校運営協議会

会長 高橋

杉並区立天沼小学校

校長 松野

泰一

日頃より本校の教育活動にご協力いただきありがとうございます。

また、このたびの学校評価アンケートには、保護者の皆様、児童、教職員、地域の皆様等、天沼小学校に関わる多くの方にご回答いただきましたことを、厚く御礼申し上げます。

ご協力いただいたアンケート結果の集計が終了しましたので、皆様にご報告申し上げます。今年度は、皆様に評価していただきたい事項をわかりやすくし、ご意見をより正確に把握できるようにするため設問を改めました。今年度の保護者アンケートの回収率は 59.5% でした。例年に比べて若干少ない回収率になりましたが、自由意見記述欄を含め、天沼小学校の教育活動に対して、ご理解をいただけている内容となっています。

以下、設問ごとの評価、自由記述欄のご意見に基づき、学校運営協議会で考察をし、次年度の教育活動に生かしていくよう協議を行った内容です。情報不足と考えられる事柄については解説も加えておりますので、あわせてご覧ください。

学校評価アンケート実施を通してめざすもの

- (1) 児童・保護者・地域の方と連携を深めながら、一人ひとりの子どものよりよい育ちを促すために、天沼小学校の教育への理解を深めていただく。
- (2) 天沼小学校の教育活動をより推進するための評価を責任をもって行い、学校教育活動への参画意識を高めていただく。
- (3) 「安全・安心な教育環境の実現」という視点から、施設・組織としての学校運営のあり方について連携と認識を深めていただく。

全体の傾向からみた考察

❖ 全体的に高い評価を示すアンケートの結果

この学校評価は、天沼小学校の目指す学校の教育目標や、育てたい子ども像の実現のため、今年度 1 年間に実践してきた主たる教育活動について、様々な立場の皆様から評価をいただき、学校運営協議会にて、その成果や課題に考察を加えて、次年度の教育計画や教育活動の改善に役立てる取組です。

こうした観点から、全 21 項目（設問数 43）の評価回答の結果を概観すると、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた「肯定回答率」は、多くの設問で 8 割以上となり、高い評価をいただくことができました。一方で、昨年度に続き、コロナ禍で学校公開が中止になるなど、保護者の皆様は学校の様子を見ることができず、評価するのが難しい面があったこともうかがえました。

年度初めに「『天沼小学校がめざす教育』のご紹介」をお配りするとともに、ホームページの「学校運営協議会【CS】」サイトでも紹介をしました。コロナ禍にあって、例年に比べると直接皆様にお話しうる機会が少なくなりましたが、日頃からの皆様のご理解、ご協力があつてこそ、評価であったと考えています。

設問ごとのご報告



ご報告の記載方法は、一番上に設問を、次にアンケート結果のグラフ、そして学校運営協議会・学校評価委員会にて協議検討した考察を示してあります。

「次年度に向けて」については、学校運営協議会がこの評価結果を受け、今後の学校運営に対しての意見を述べ、来年度の教育内容への反映を目指して協議した内容です。

また、家庭・地域の皆様とともに進めていきたい教育内容についても記載しています。学校・家庭・地域がともに連携して、天沼小学校の子どもたちの成長を支援していきましょう。



学校運営協議会の1年間の活動を振り返って

天沼小学校学校運営協議会 会長 高橋武郎

今年度も、コロナ禍による行事の縮小や中止など、様々な教育活動に対する影響を受けた1年間となっていました。子どもたちにとって、本来の学習や行事などの活動が十分に行うことができないことは、とても残念でなりません。しかし、そのような中でも、松野校長先生をはじめ教職員の皆様は、子どもたちのために様々な工夫を凝らすなど、懸命に努力してくださいました。ここに、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、私ども学校運営協議会では、天沼小学校の子どもたちの教育の充実を目指し、月1回の定例会（年間11回）での協議を深めながら、学校・保護者・地域が一体となったよりよい教育環境づくりに向けて、様々な活動に取り組んでまいりました。特に、この学校運営協議会としての機能を高めるため、学校評価部会、研修交流部会、広報部会の3つの部会を設け、活動の充実に取り組んできたところです。

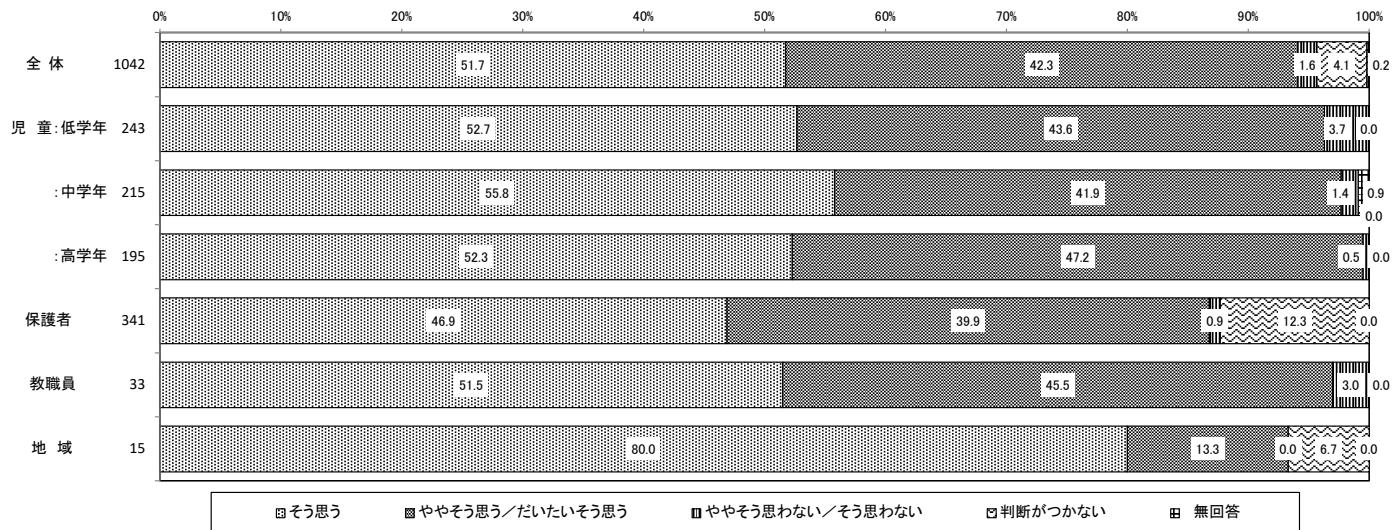
例えば、研修交流部会が中心となって8月に実施したサマーワークショップや、広報部会が中心となって行っている毎月の学校だよりでの広報活動などが挙げられます。また、今回実施いたしましたこの学校評価アンケートも、皆様からいただきました評価結果を今後の学校運営や教育活動の充実に反映させるための重要な取組であり、学校評価部会を中心とした活動の一つです。

今後も、天沼小学校の子どもたちのために、私ども学校運営協議会としてよりよい支援ができるよう努めてまいりますので、改めて保護者・地域の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。1年間、ありがとうございました。

1 基礎学力の定着（「学んでわかるおもしろさ」をめざして）

① 「あまぬま学びの約束」の実践

- 設問1 **1・2年生** あまぬま学びのやくそくがわかり、守っています。
3・4年生 「天沼のきまり」「あまぬま学びの約束」など、学校生活のルールを守って生活しています。
5・6年生 「天沼のきまり」「あまぬま学びの約束」などのルールを守り学校生活を送っています。
保護者・教職員・地域 「あまぬま学びの約束」に基づいた授業運営が行われている。

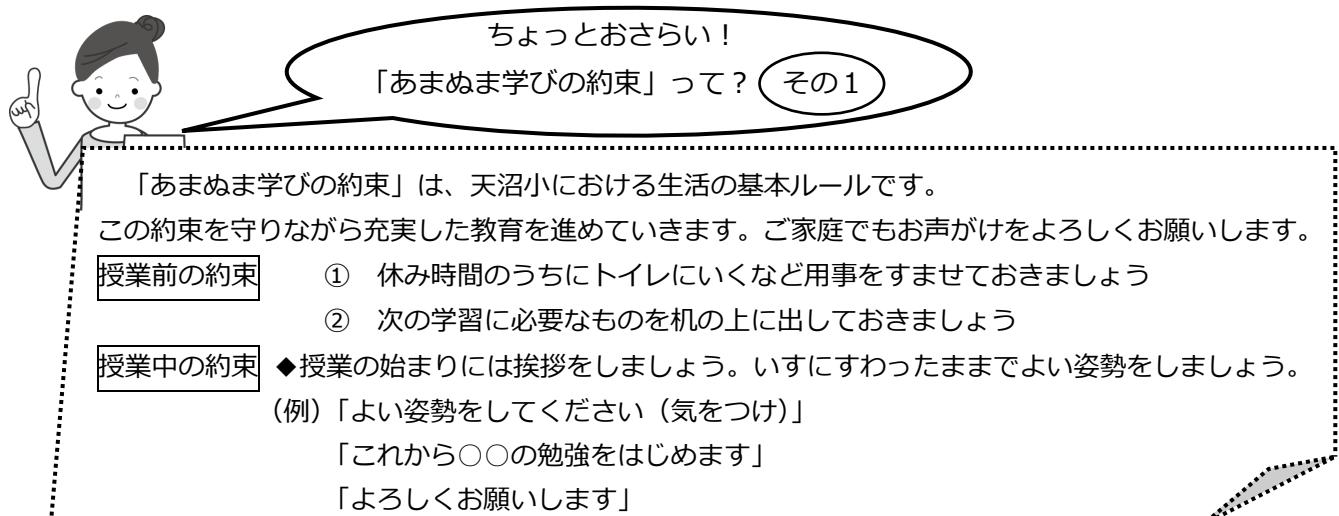


*以下、保護者、教職員、地域の関係者を合わせて「保護者等」として示しております。

次年度に
向けて

【肯定回答率 児童 97.9% 保護者等 87.9%】（昨年度：児童 97.9% 保護者等 88.8%）

学校生活の基本ルールである「あまぬま学びの約束」については、低学年のうちから継続的に取り組んでいきたいテーマとして今後も続けていきます。ここ2年間は学校の取組になかなか保護者の方々が参加できない状況だったため、保護者の認識が低い結果となりましたが、あいさつや帰宅時間、遊ぶ時間など生活における規範についてはぜひ家庭でも取り組んでいただき、学校と家庭が連携して基本的な生活規範を育てていけるよう、ご協力をお願いいたします。



②すべての教育活動での言語活動の充実

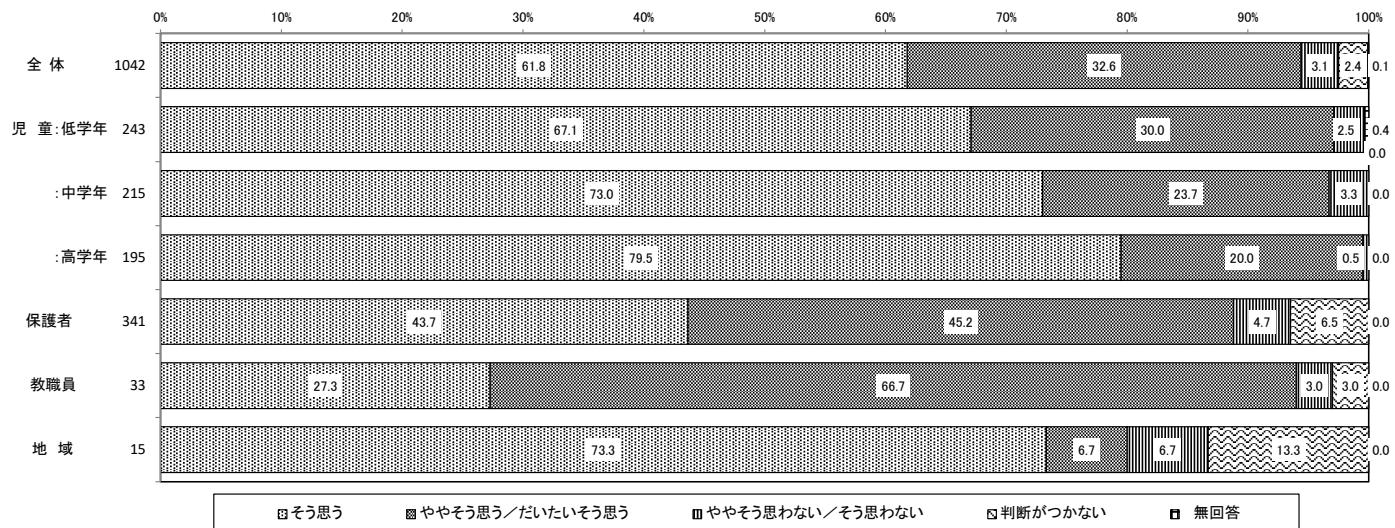
設問 2

1・2 年生 授業の中で自分の考えを発表したり友達の話を聞いたりしています。

3・4 年生 授業では、話し合ったり考えを書いたりする活動があります。

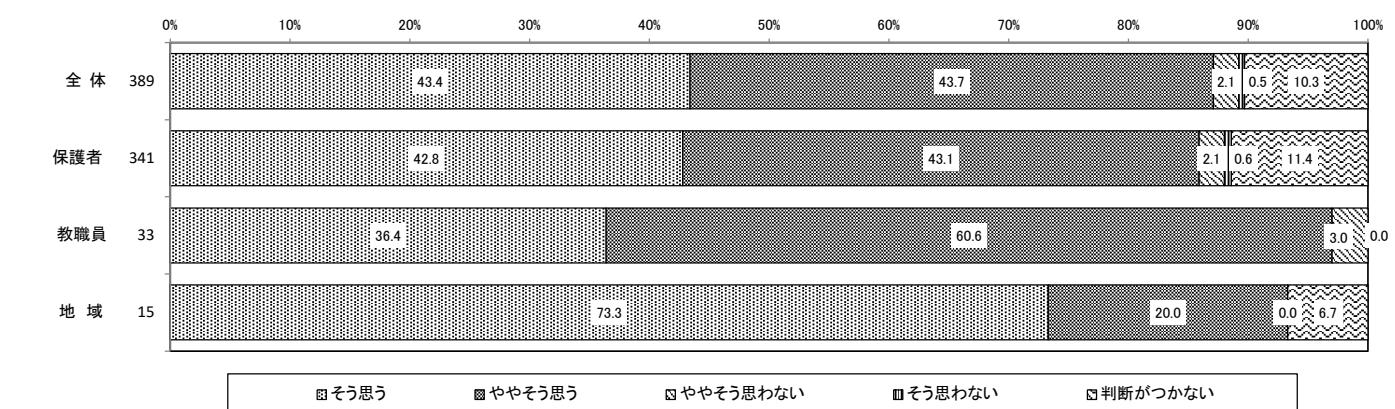
5・6 年生 授業中に話し合い活動や振り返りの活動の時間があります。

保護者・教職員・地域 授業を通して、学びの基本となる「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」力が養われている。



設問 3

保護者・教職員・地域 授業では話し合い活動を通じて自分の考えを表現したり、振り返りで具体的な言葉での表現を考える取組が行われている。



次年度に
向けて

【肯定回答率 児童 97.7% 保護者等(設問 2)88.9% (設問 3)87.1%】

(昨年度：児童 97.5% 保護者等 93.6%)

本設問は、保護者等へのアンケート内容を昨年度のものから変更しました。

アンケート結果を見ますと、学校におけるすべての教育活動において、自分で考え、自分の言葉で伝え、他者の意見をしっかりと聞く力を養う機会が、学習の中で積極的に設けられていることに対する評価になっています。これから社会では、こうしたコミュニケーション力がとても重要になっていきます。今後も引き続き「聞く」「話す」「読む」「書く」力をバランスよく育てる指導、さらに発表のときには原稿に頼らず、自分の言葉で話す力を養えるように取り組んでいきます。

③算数少人数指導の実施

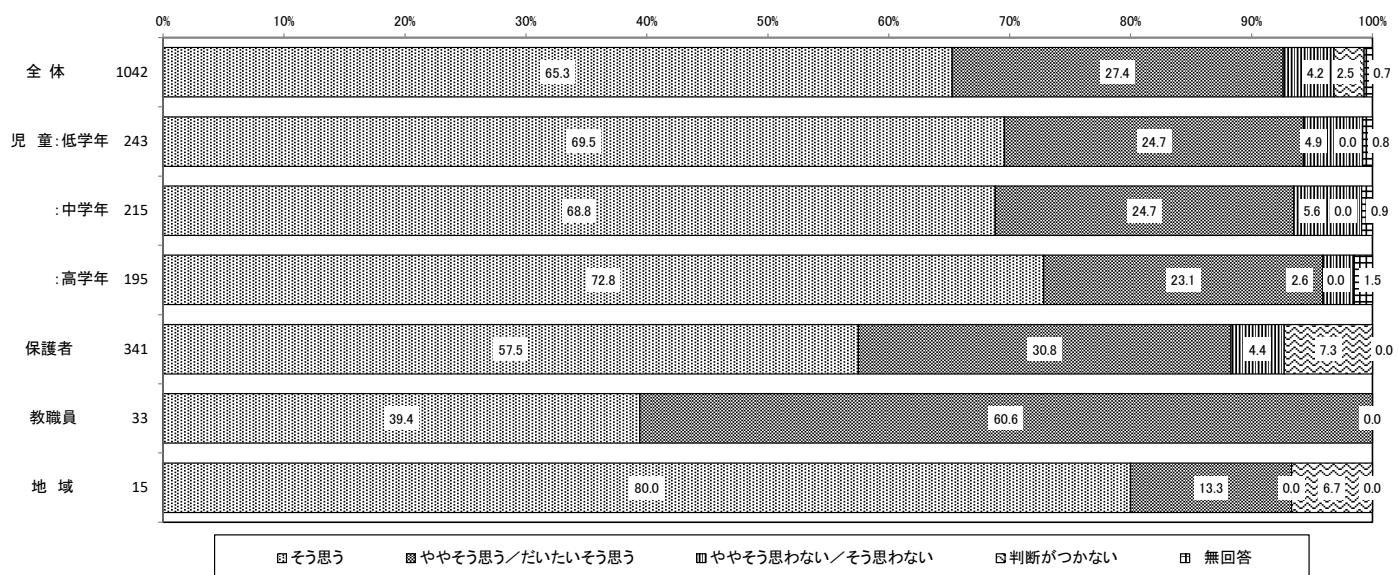
設問4

1・2年生 算数少人数の授業では、学習の進め方が自分に合っていて、わかりやすいです。

3・4年生 算数少人数の授業では、学習の進め方が自分に合っていて、わかりやすいです。

5・6年生 算数少人数授業では、自分に合った速さで学習ができ、内容の理解につながっています。

保護者・教職員・地域 多様な指導方法により、意欲的に取り組める学習環境が整えられている。



次年度に 向けて

【肯定回答率 児童 94.5% 保護者等 89.4%】(昨年度:児童 96.7% 保護者等 93.2%)
児童の肯定回答率を見ますと、算数少人数指導に関しては、日々の取組が成果につながっていると感じられる結果となりました。児童数が増加傾向にあります、今後も児童一人ひとりの学習状況に合わせた指導を継続していきます。



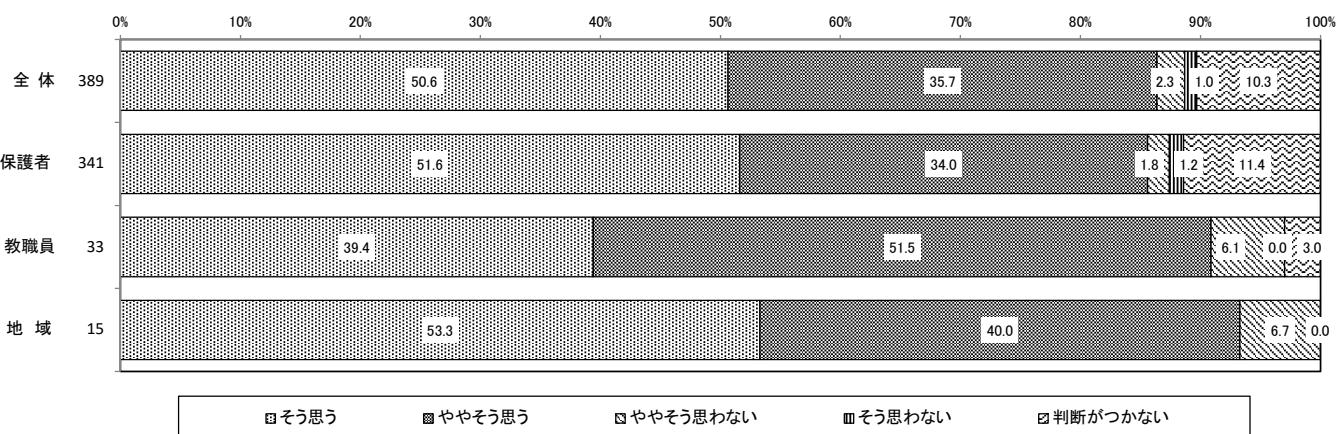
ちょっとおさらい！
「算数少人数指導」って？ どういう意味があるの？

天沼小の算数の学習では、1年生は1組と3組と5組を4展開に、2組と4組を3展開し、その他の学年は3学級4展開、4学級5展開で授業を行い、学習の目的や内容に合わせ、個々に合ったきめ細やかな指導方法を取り入れています。それにより、児童一人ひとりが意欲的に取り組める学習環境がつくられています。

また、習熟度別指導の方法として、1年生は単元によって分け方を変え、2年生以上は「どんどん・すくすく・じっくり」などのコースに分けて、基礎・基本部分の学習を確実に行っていき、また、理解の早い児童はさらに発展問題などに取り組むなどしています。

④教員の専門性を生かした指導の実施

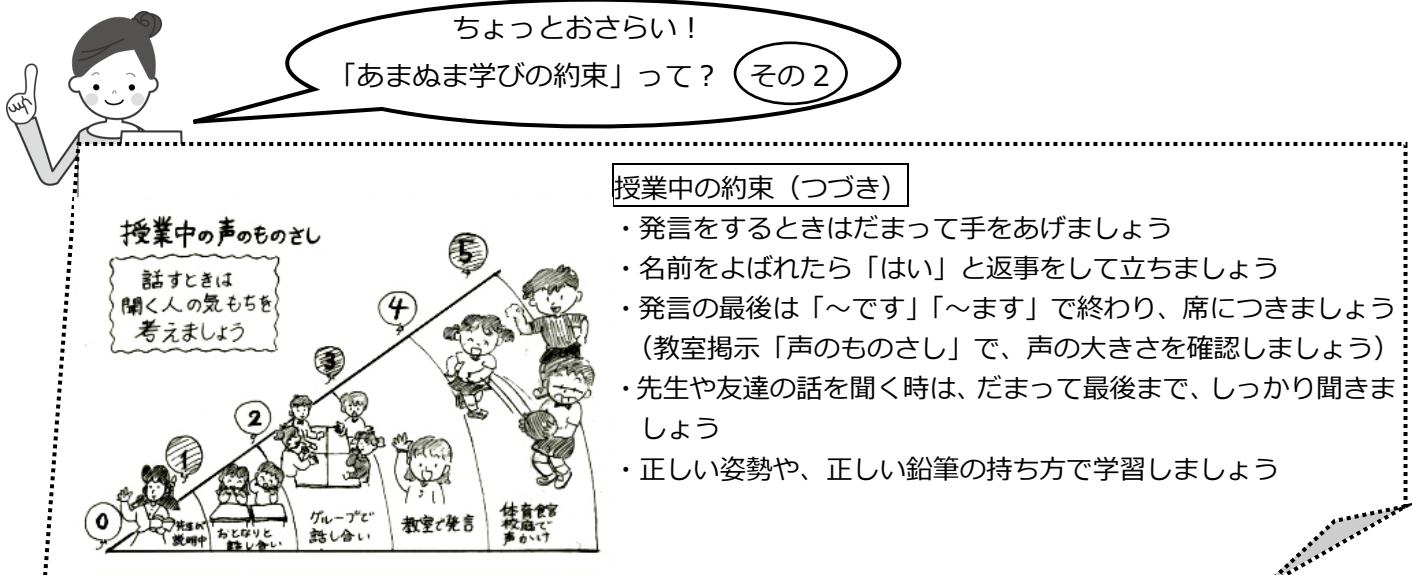
設問5 保護者・教職員・地域 専科制や教科担当制など、教員の専門性を生かした指導が行われている。



次年度に 向けて

【肯定回答率 保護者等 86.3%】(昨年度:84.5%)

天沼小では、4年生以上の学年で専科制（理科・音楽・図画工作など）を採用したり、他の学年では教員毎の専門性を生かしたりして教育を行うことを目指しています。今年度もコロナウィルスの影響で、学習活動に制限があり必ずしも専門性を十分に生かせない部分がありました。そうした中で、学年毎に教員が子どもたちのために何ができるかを考えて指導に取り組んでいる姿が見られました。次年度も引き続き制約が予想されますが、専門性を発揮できるよう、さらなる指導力の向上と指導体制の構築に取り組んでいきたいと考えています。



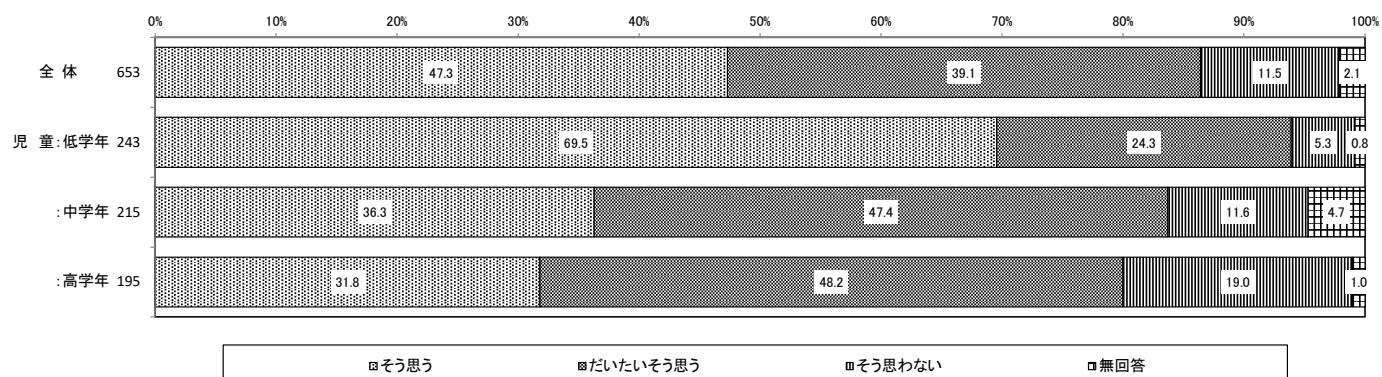
⑤基礎学力定着のための取組(児童)

設問 6

1・2年生 チャレンジタイムでの学習にがんばって取り組んでいます。

3・4年生 チャレンジタイムで学習することで、より力がついています。

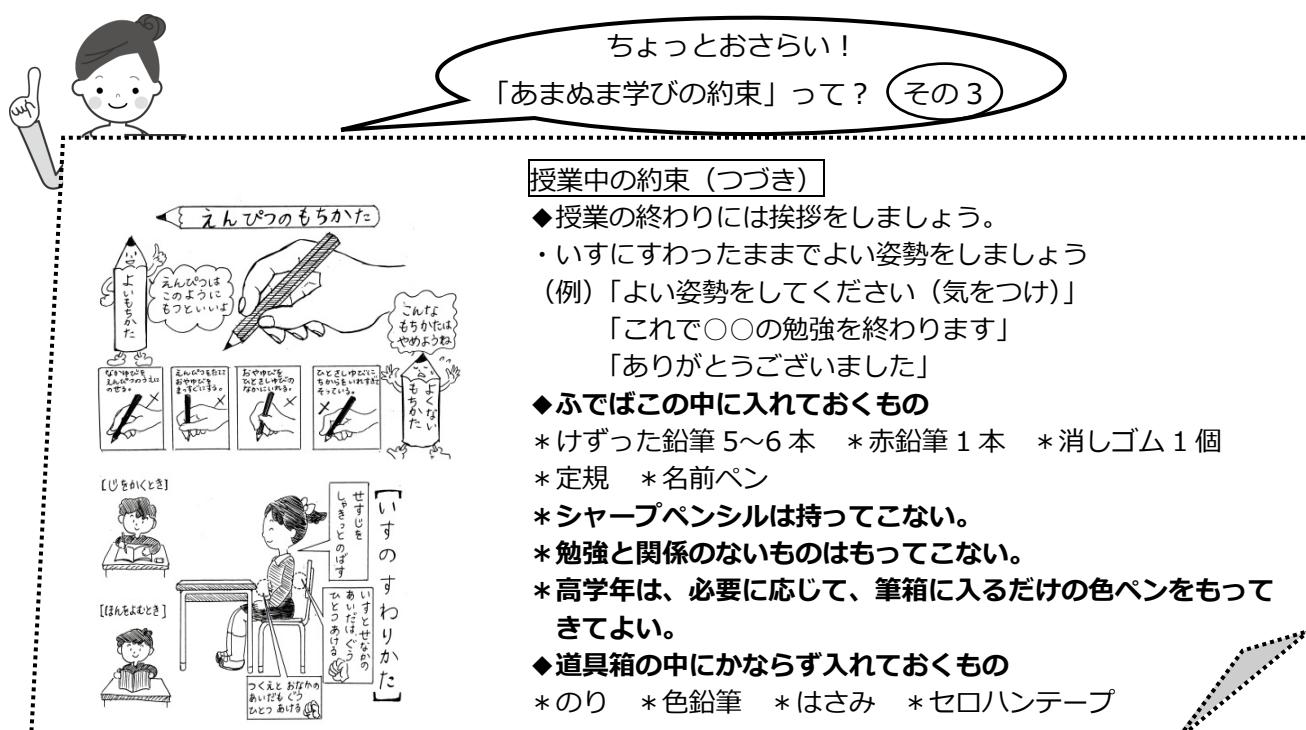
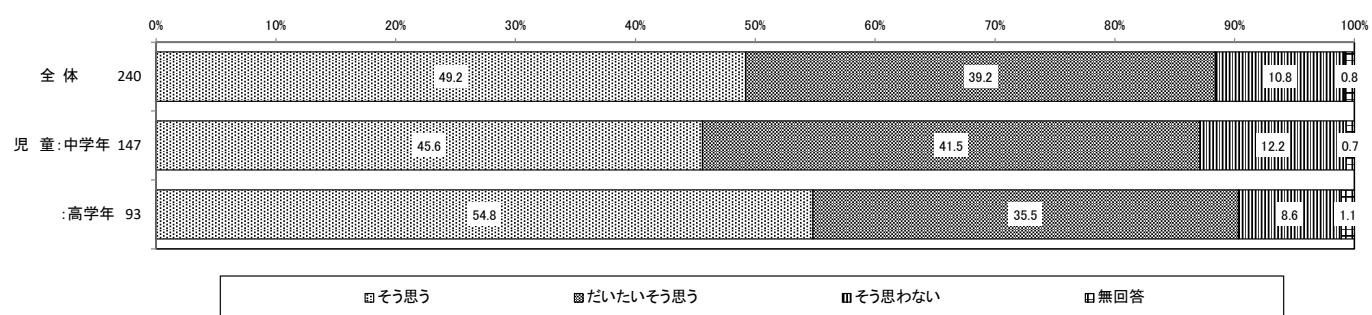
5・6年生 チャレンジタイムで学習することで、より力がついています。



設問 7

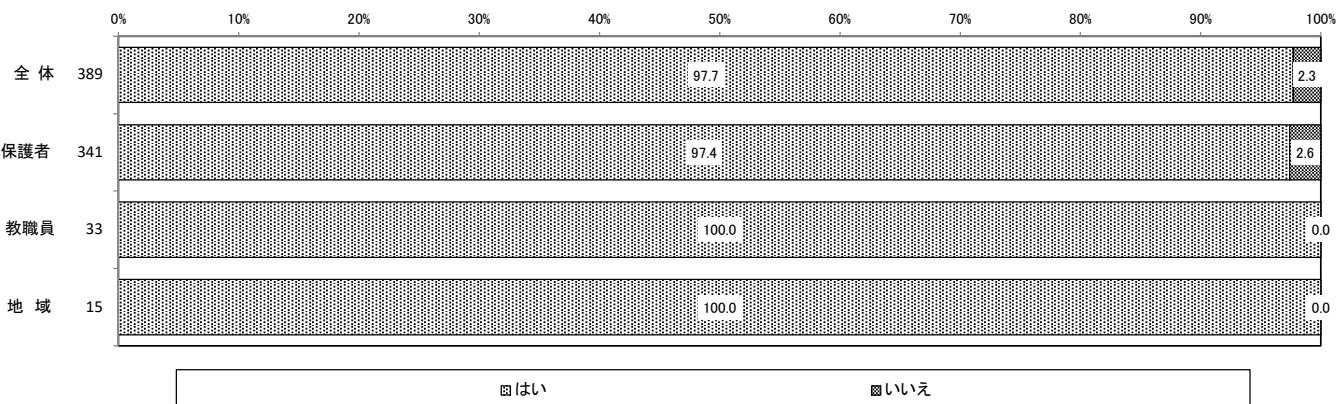
3・4年生 私はフォローアップタイム・ハッピイすたでいに取り組むことによって力がついています。

5・6年生 私はフォローアップタイム・ハッピイすたでいに取り組むことにより力がついています。

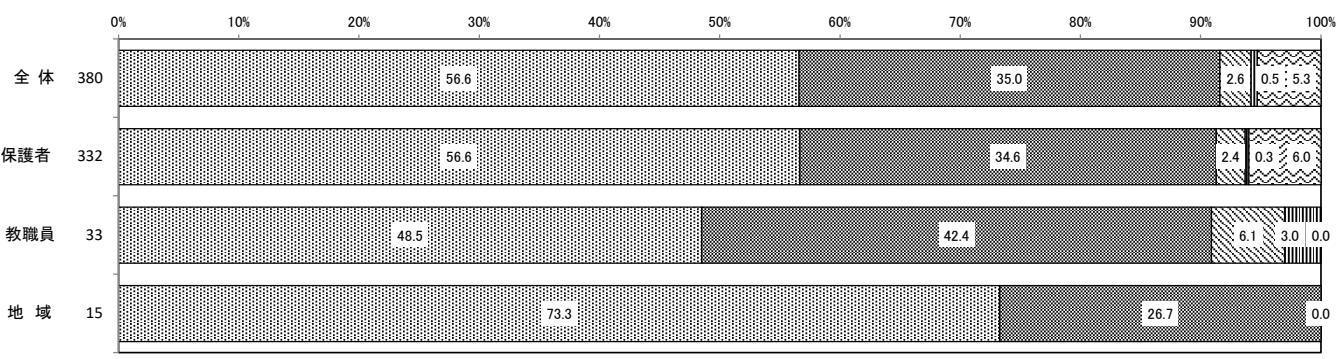


⑤基礎学力定着のための取組(保護者)

設問8 保護者・教職員・地域 授業の他にも、基礎学力定着のために様々な取組が行われていることを知っている。



設問9 保護者・教職員・地域 設問8の取組を通して、基礎・基本的な学習の定着が図られている。



次年度に
向けて

設問6について【肯定回答率 児童86.4%】(昨年度児童:92.2%)

設問7について【肯定回答率 児童88.4%】(昨年度:児童92.9%)

設問9について【肯定回答率 保護者等91.6%】(昨年度:保護者等90.4%)

「チャレンジタイム」を用いた学習時間については、特に低学年を中心として成果につながっていると感じられる結果です。今年度も密を避けるため、学年によってチャレンジタイムを中休みの前後に分散させる工夫をしました。

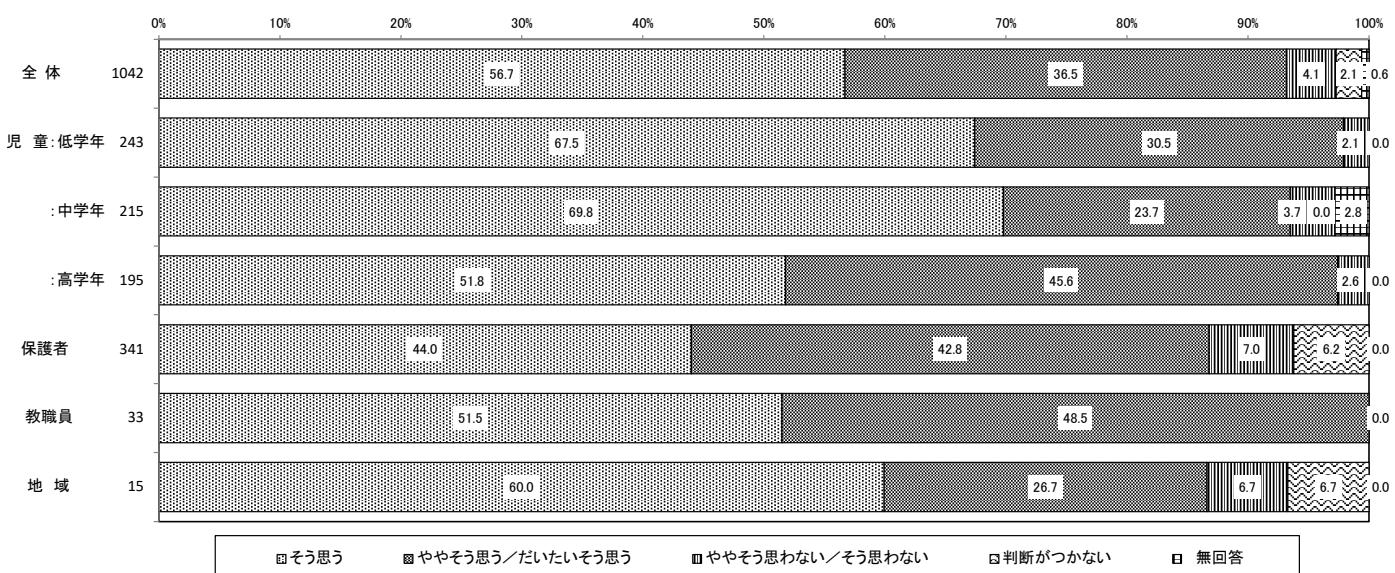
「フォローアップタイム」等の取組学習についても、多様な学習機会の一つとして、今後も有効に活用していきたいと考えます。

どちらの取組も保護者の周知がされており、高い肯定回答率を得ております。このような活動は、継続して取り組むことが成果につながっていきますので、次年度以降も、学校支援本部等の地域協力者と教員との連携をしっかりと図り、より効果的な学びの場として継続していきます。

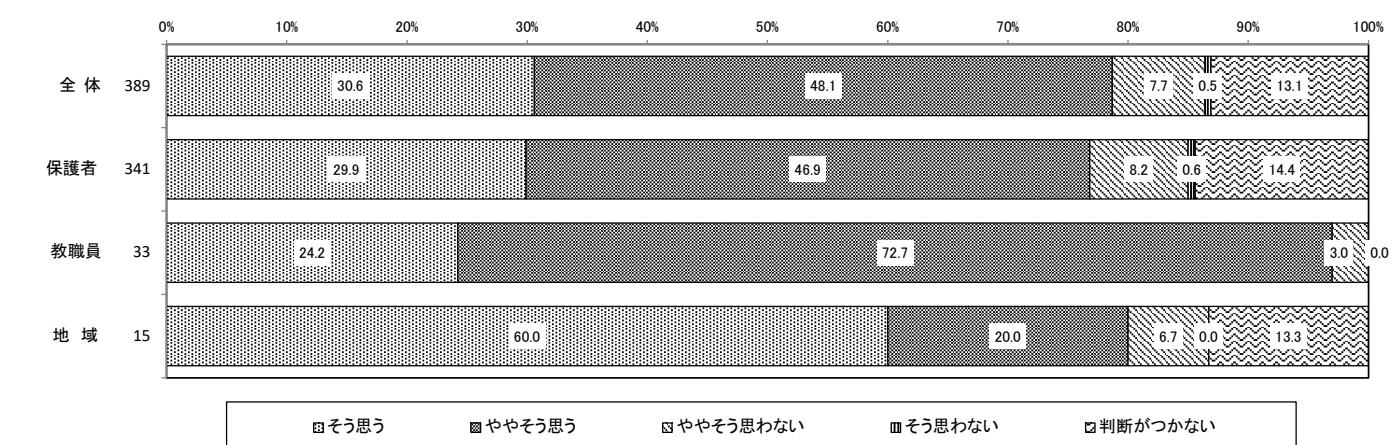
豊かな人間性の育成（「人とかかわるおもしろさ」を体感する）

⑥規範意識の醸成

- 設問 10 **1・2 年生** きまりを守ることの大切さを教わっています。
3・4 年生 人と協力すること、助け合うなどの大切なことを学んでいます。
5・6 年生 高学年としての自覚を持ち、きまりやルールを意識して行動しています。
保護者・教職員・地域 社会のきまり・ルールを意識する指導が学齢に応じて行われている。



- 設問 11 **保護者・教職員・地域** 設問 10 の学校教育を通して、自己の生き方およびその基盤となる判断力が育まれている。



次年度に
向けて

【肯定回答率 児童 96.4% 保護者等(設問 10)87.9% (設問 11)78.7%】

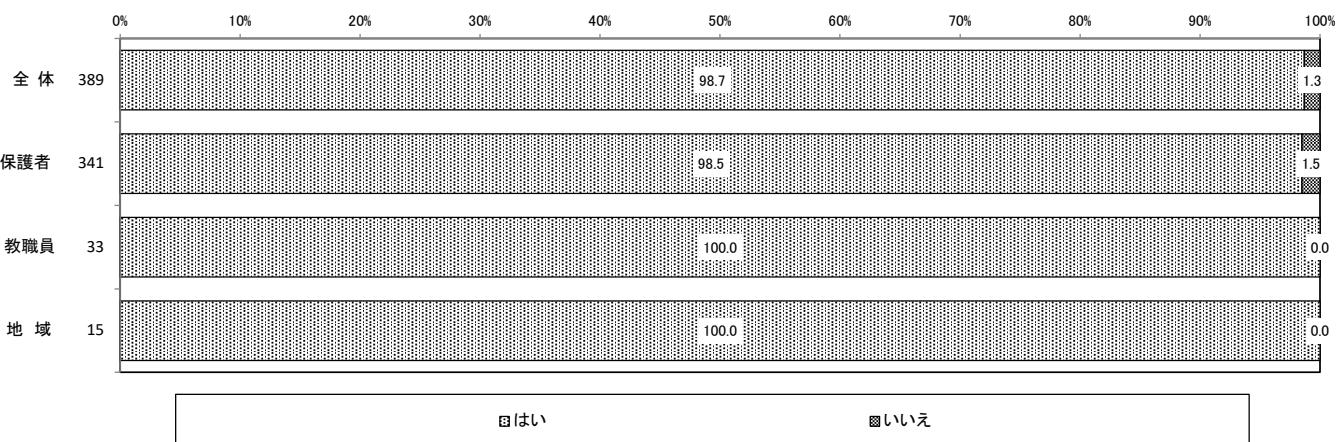
（昨年度：児童 96.2% 保護者等 92.8%）

本設問も、昨年度のものから変更しました。

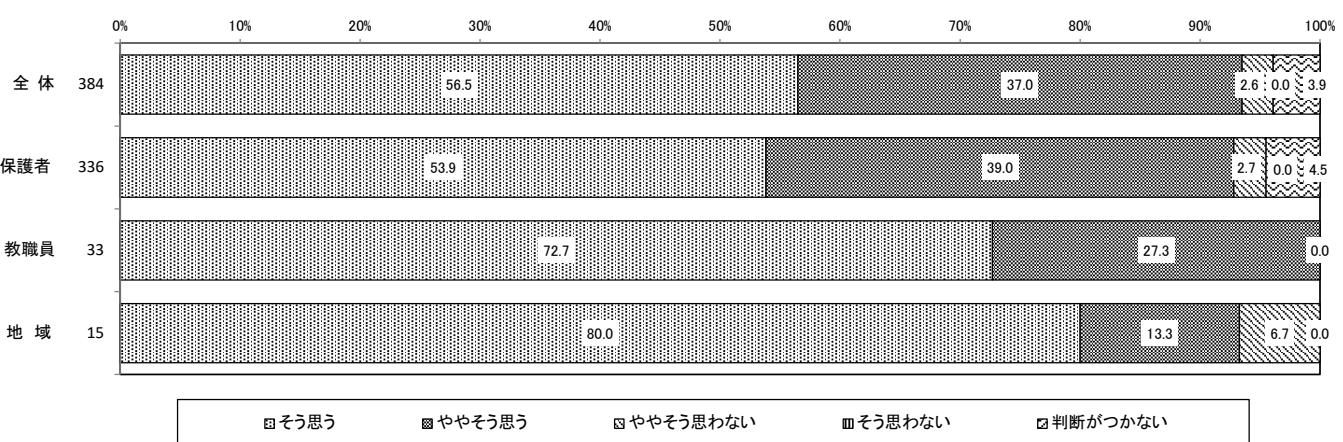
アンケート結果を見ますと、保護者等では設問 10 と比べて設問 11 では肯定回答率が低くなっています。今後取り組むべき点が明確になりました。規範意識を育むということについては、学校運営協議会としても、とても大切な問題として考えています。今後も重点的に取り組むテーマのひとつとして検討を行っていきます。

⑦地域社会の一員としての自覚を育む取組

設問 12 **保護者・教職員・地域** 天沼小と、町会や商店会をはじめとする地域の方々との交流活動が行われていることを知っている。



設問 13 **保護者・教職員・地域** 設問 12 の活動は、児童が天沼地域の一員としての自覚や地域への愛着心を育むのに役立っている。



次年度に
向けて

【肯定回答率 保護者等 93.5%】（昨年度：86.7%）

地域の方々との交流については、地域社会を構成する一員であるという自覚を育むためにも、継続的に行っていきます。学校支援本部がコーディネートする地域と連携した活動が、天沼小の大きな特色です。次年度以降、より子どもたちにとってプラスになる取組のコーディネートを進めていきます。



ちょっとおさらい！
「天沼小がめざす教育」について

天沼小では今年度の教育方針として「～おもしろいこと、しよう。～」を掲げています。

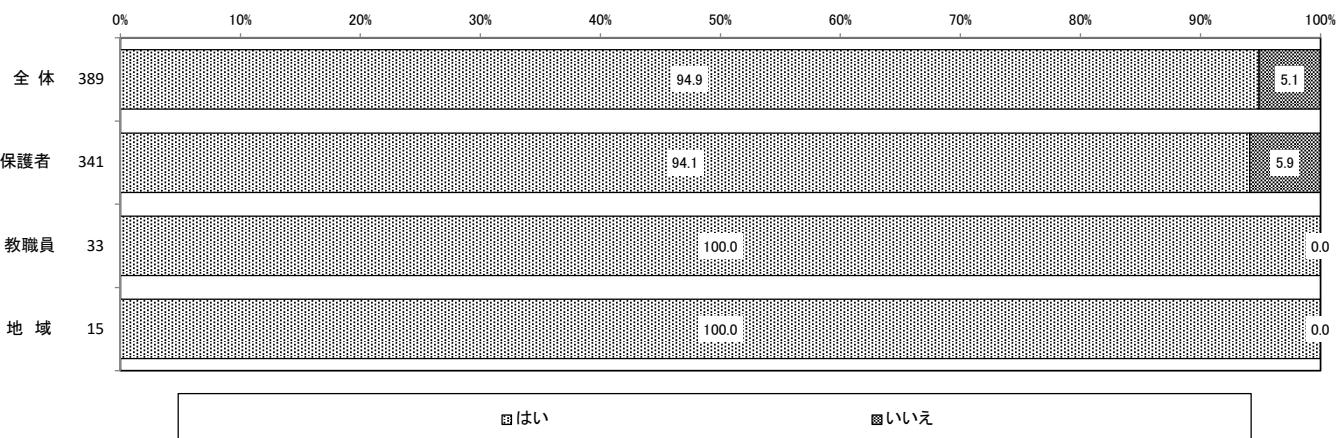
このテーマは、下記の3つの「おもしろさ」で構成されています。

- ①「わかるおもしろさ」…知識や経験を身につけることによって、いろいろなことを理解できる基礎を培う（基本基礎の充実、ICT教育の継続推進）
- ②「人とかかわるおもしろさ」…多様な人たちと関わることで社会性を身に付け、自分以外のすべての人を尊敬する心を養う（地域との連携による教育、インクルーシブな心の教育）
- ③「生きるおもしろさ」…学校の中だけにとどまらず、子どもたちの人生そのものを支えていく「主体的・対話的で深い学び」を推進する（社会に開かれた教育課程の実現）

皆様もこうした「おもしろさ」を通して、子どもたちの学びを見つめ、支えてください。

⑧すべての人とかかわって生きる喜びの醸成（インクルーシブな心の育成）

設問 14 保護者・教職員・地域 さまざまな人たちとの関わりを大切にした活動を行っていることを知っている。

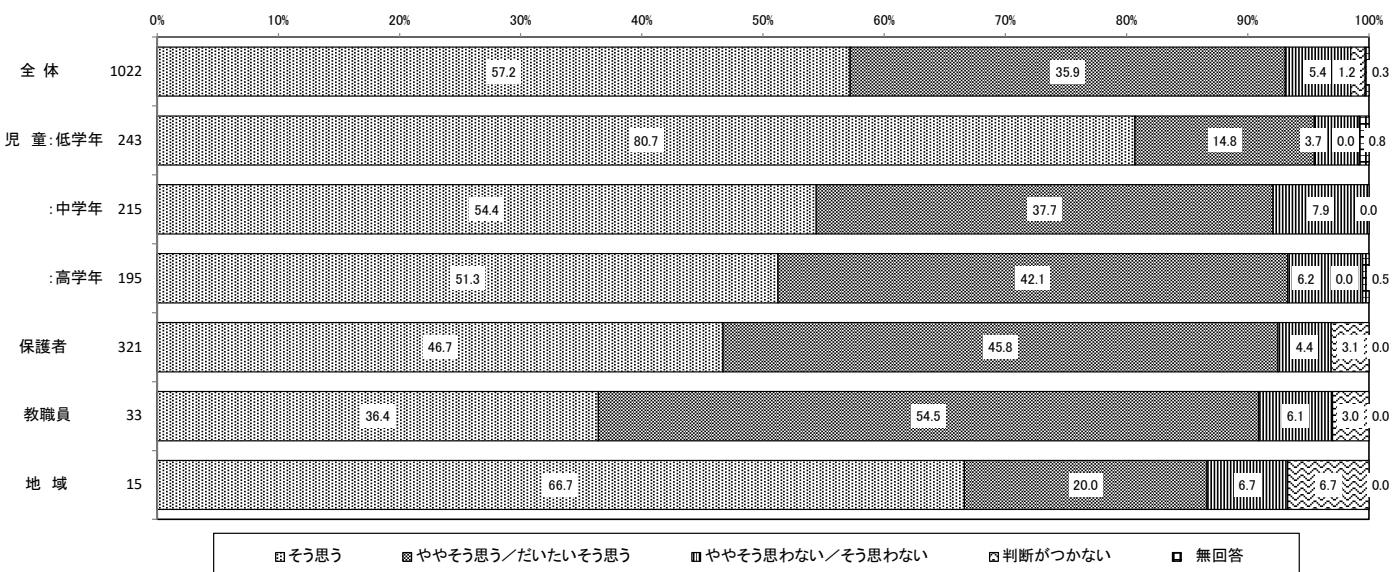


設問 15 1・2年生たてわりはんの人たちと楽しく遊んでいます。

3・4年生 こだま学級との交流やたてわり班活動を通し、ともに生活をする仲間として大切に思っています。

5・6年生 こだま学級との交流やたてわり班活動を通し、ともに生活をする仲間として尊重しています。

保護者・教職員・地域 設問 14 の活動を始めとして、「お互いを理解し合い、さまざまな人たちとかかわって生きる喜び」を児童が感じられるよう、機会の提供と必要な支援が行われている。



次年度に
向けて

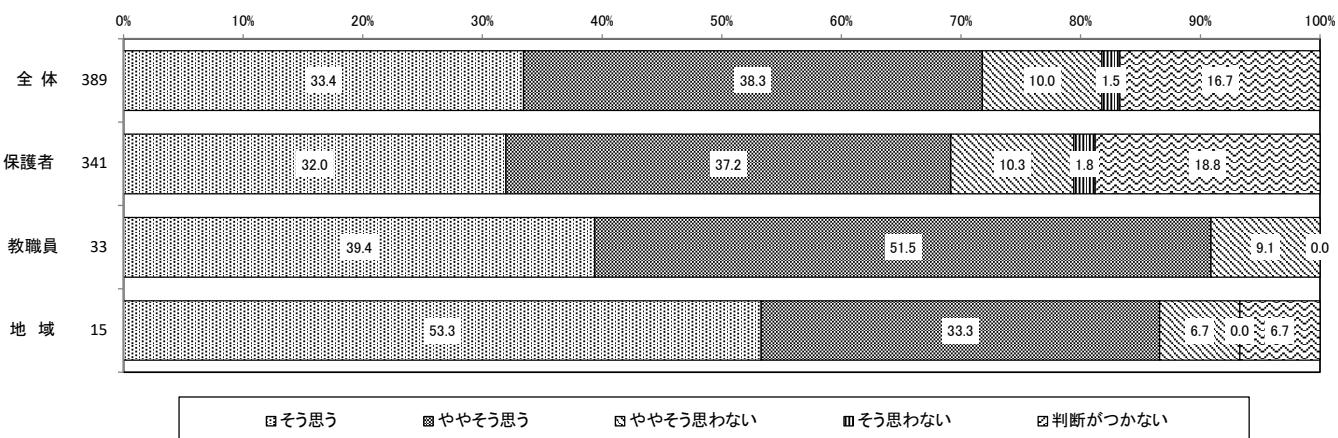
【肯定回答率 児童 93.7% 保護者等 92.1%】(昨年度：児童 97.1% 保護者等 90.1%)

天沼小には通常学級と特別支援学級との交流や、たてわり班における異なる学年同士の交流があります。また、4年生は障がいのある方との交流学習も行っています。こうした機会を通じ、日々の学校生活はもちろん、総合的な学習の時間等においても、「人とかかわるおもしろさ」に向き合っていきます。各ご家庭でもぜひ、多様性を認め、様々な立場、個性を発揮する人々とともに心地よく生きていくというテーマについて会話を深めていただきたいと思います。

心と体の健康づくり（たくさんの「おもしろいこと」に出会うために）

⑨体力の向上と健康の増進

設問 16 保護者・教職員・地域 充実した体育学習のために、ゲストティーチャーの招へい等の取組を行っている。

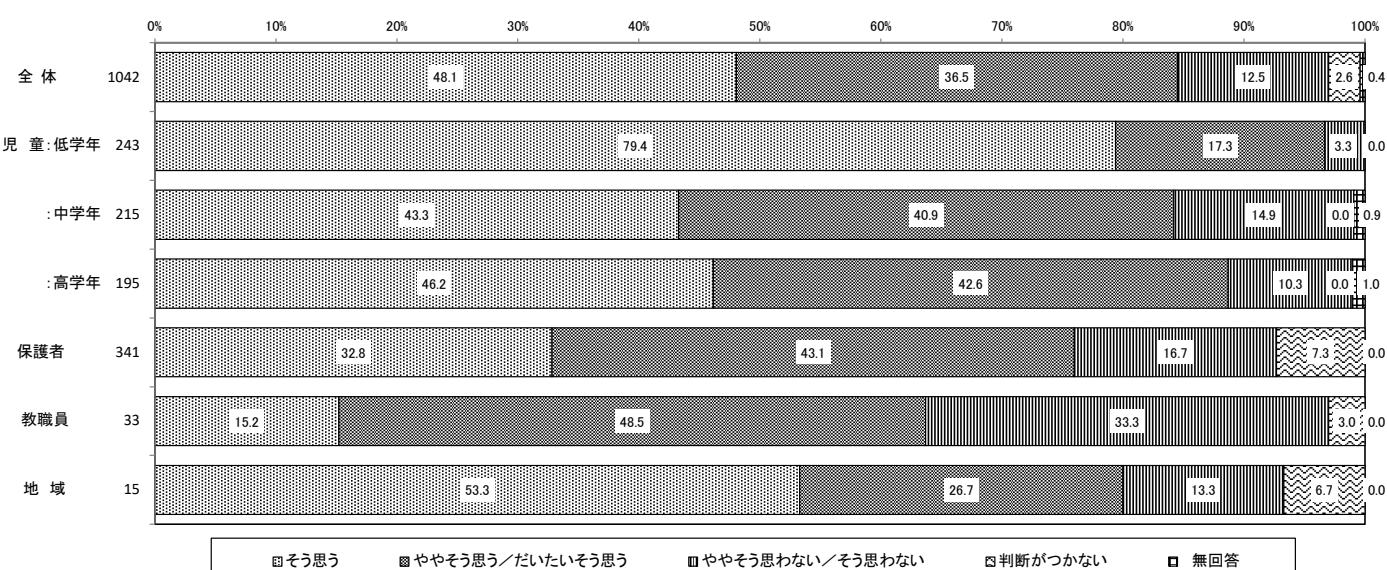


設問 17 1・2 年生 休み時間やなわとび、かけあしなど体を動かしています。

3・4 年生 休み時間やなわ跳び週間を通して体力づくりにはげんでいます。

5・6 年生 なわ跳び週間、持久走週間などの取り組みにより体力の向上にはげんでいます。

保護者・教職員・地域 体力の向上と健康の増進を図る取組が行われている。



【肯定回答率 児童 90.2% 保護者等(設問 16)71.7% (設問 17)75.0%】

(昨年度：児童 91.4% 保護者等(設問 16・17) 90.9%)

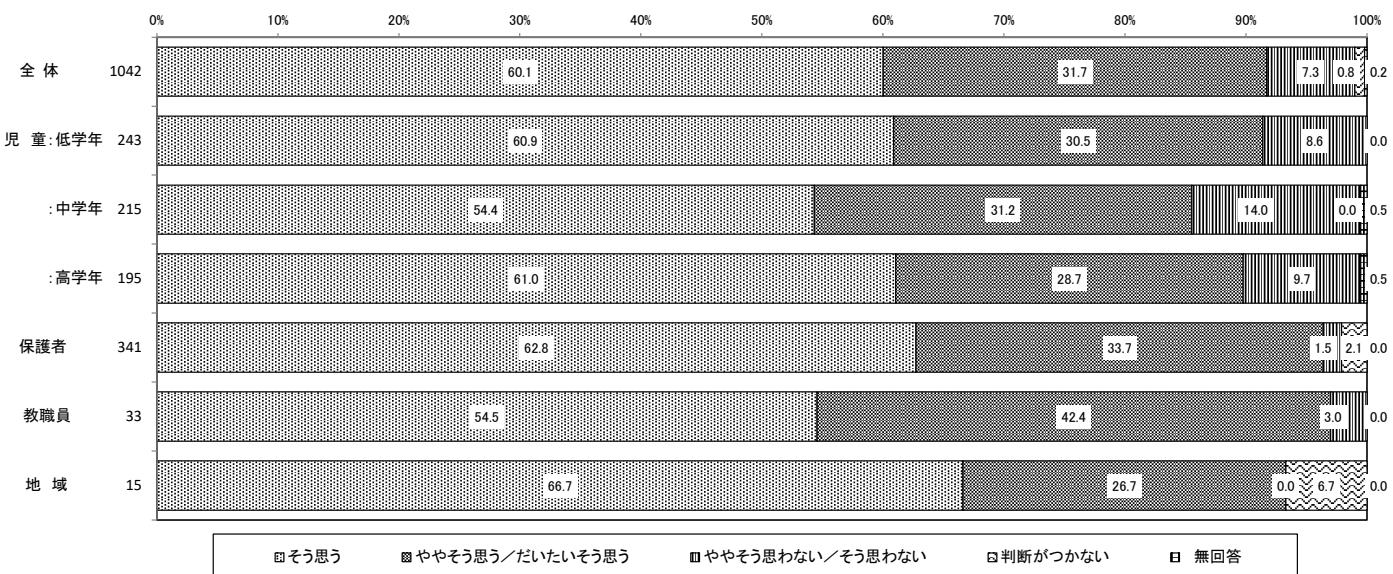
体力の向上は継続的な課題として認識しており、校舎増設工事が始まってからも、身体を動かせる場所、時間の確保を図りました。例えば、5、6年生が天沼中学校の校庭を借りて体育の授業を行った他、中休みを前後半に分け、必ずどちらかの時間で身体を動かせるようにしました。来年度の9月までには工事が完了する予定ですが、引き続き時間、場所の確保に努めていきます。

子どもたちの健康増進も重要です。引き続き、手洗い、消毒を徹底していきます。また、新たな取組みとして、児童の視力が低下傾向にあることを受けて、学校運営協議会からの発案で「目の体操」を作成し、児童の保健委員会が実施しました。これからも、健康増進のための対策を講じていきます。

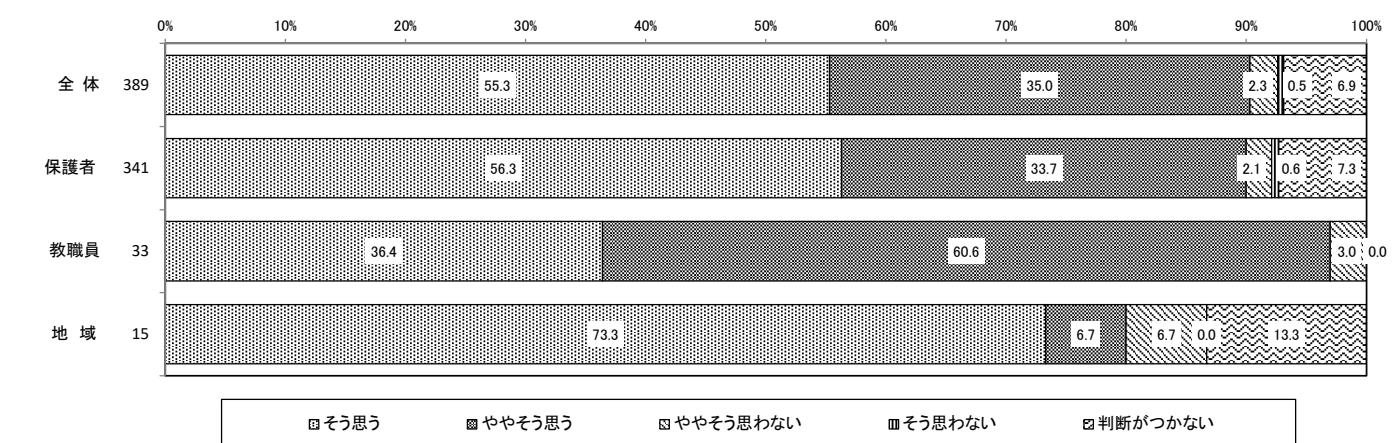
次年度に
向けて

⑩食育の推進

設問 18 **1・2 年生** 毎日楽しくきゅう食をすききらいなく食べられるようになっています。
3・4 年生 每日楽しく給食の時間を過ごし、好き嫌いなく食べられるようになっています。
5・6 年生 每日楽しく給食の時間を過ごし、好き嫌いのないように食べています。
保護者・教職員・地域 メニューや提供の仕方の工夫により、給食が多様性、栄養確保、食べる楽しさが図られたものとなっている。



設問 19 **保護者・教職員・地域** 栄養士から食に関する様々な情報が提供され、給食を通じた体と心の健康づくりが進められている。



次年度に
向けて

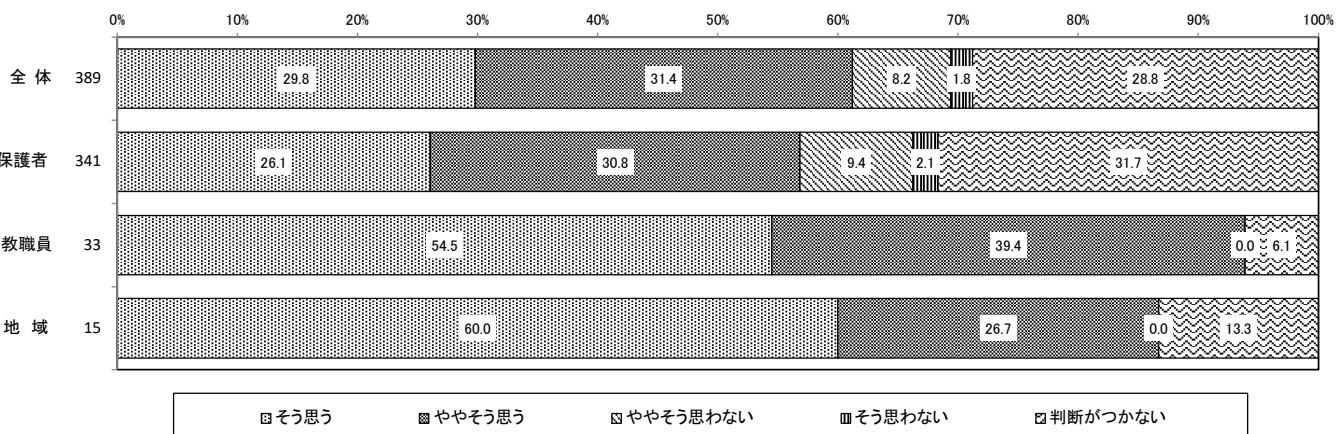
【肯定回答率 児童 89.0% 保護者等(設問 18)96.4% (設問 19)90.3%】

(昨年度：児童 92.4% 保護者等(設問 18・19) 96.8%)

通常の給食時間は、わきあいあいと楽しい時間のはずですが、コロナ禍での給食は感染予防のため、みんな黒板の方を向いてお話しを一切せずに食べています。大人も見習うべき姿かもしれません。しかし、こんな時だからこそ、栄養士や調理員との連携により、多様なメニュー、安全で安心な給食が提供されています。毎月の「給食だより」にも「食」をテーマにした話題が掲載されていますので、ぜひご確認ください。

⑪スクールカウンセラーとの連携を通じた心の教育の推進

設問 20 **保護者・教職員・地域** スクールカウンセラーと担任が連携して、人間関係に関わる問題の早期発見と予防に努めている。

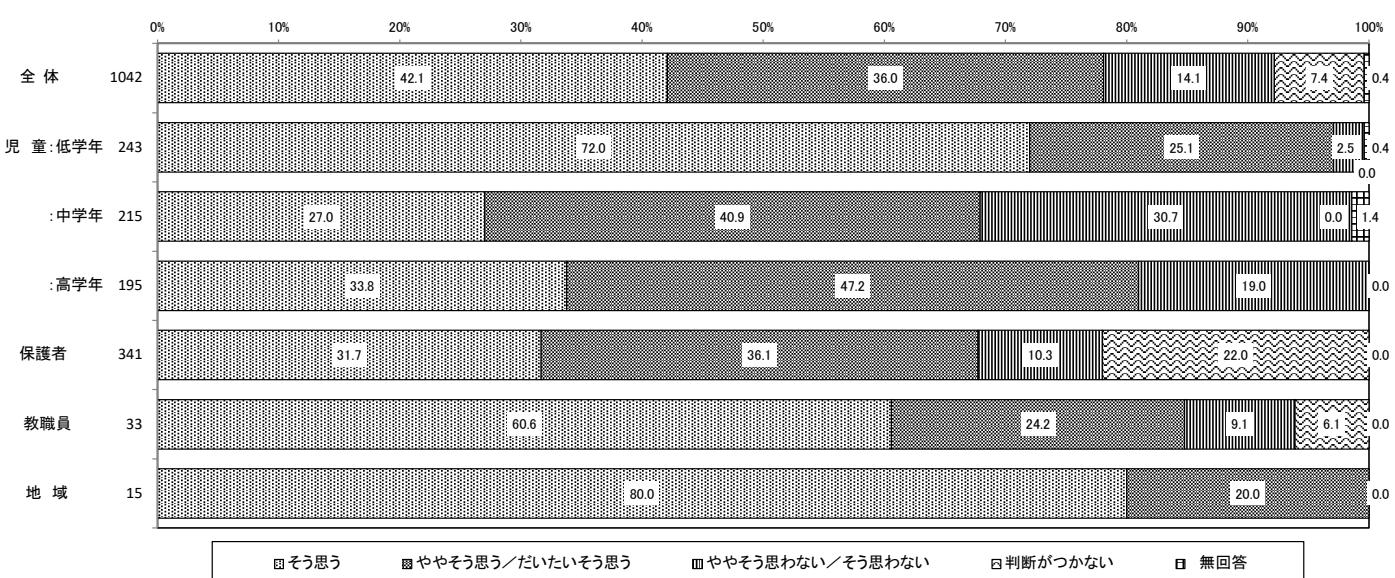


設問 21 **1・2年生** こまつたときは先生にそだんしようと思います。

3・4年生 学習や生活で悩んだ時には先生やスクールカウンセラーに相談しようと思います。

5・6年生 学習や生活の中で悩んだ時には先生やスクールカウンセラーに相談しようと思います。

保護者・教職員・地域 気軽にスクールカウンセラーに相談できるよう、教育相談の環境が整えられている。



次年度に
向けて

【肯定回答率 児童 82.7% 保護者等(設問 20)61.2% (設問 21)70.4%】

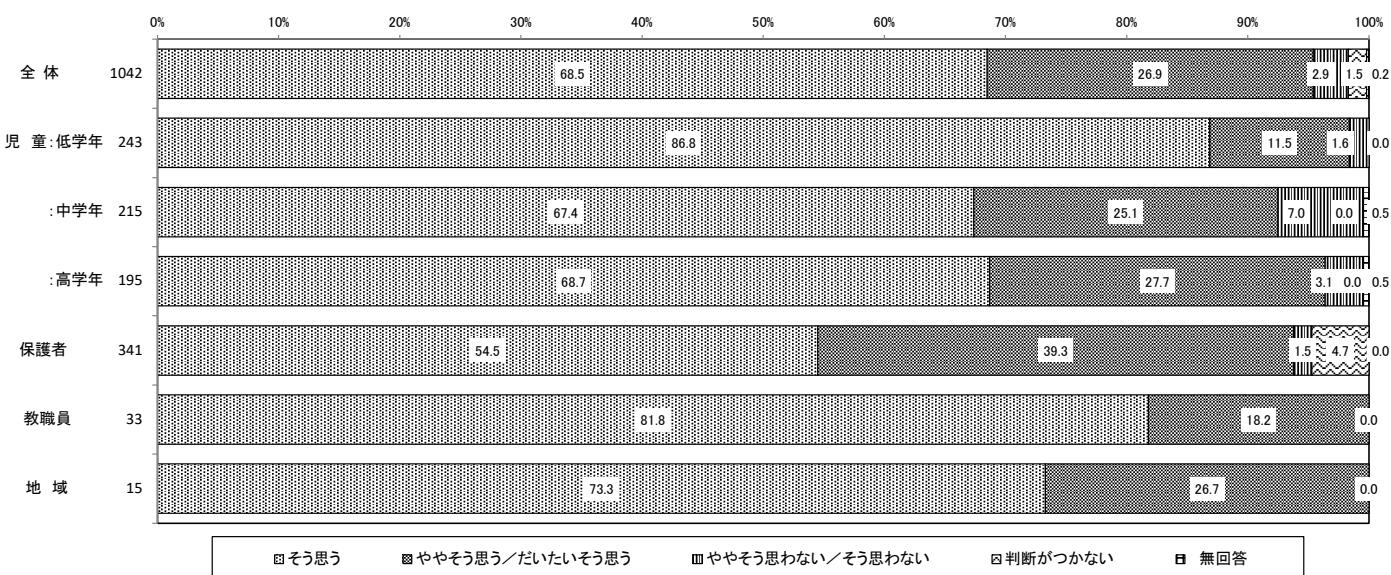
(昨年度：児童 86.0% 保護者等 73.1%)

スクールカウンセラーは常に子どもの相談に優先的に応じる形をとっており、1人につき2時間の面談時間を確保して、丁寧に相談に応じています。また、5年生は必ず全員が面談を行います。「相談」というと堅苦しくなりますので、「おしゃべり」をする感覚で気軽に話しかけてほしいとのことでした。

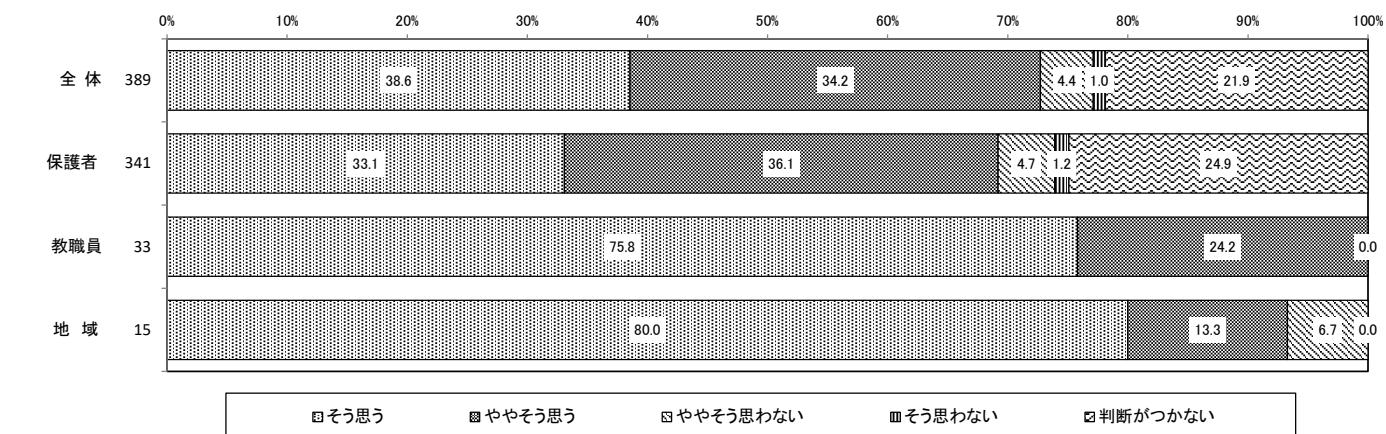
特色ある教育活動（「天沼小ならではのおもしろさ」がここにある）

⑫読書タイム、お話会、読書週間の実施、学習情報センターとしての学校図書館の役割

- 設問 22 **1・2 年生** 読み聞かせやお話会、図書の時間を楽しくすごしています。
3・4 年生 お話会、読書旬間、図書の授業など楽しく読書の時間に取り組んでいます。
5・6 年生 お話会、読書旬間、図書の授業など楽しく読書の時間に取り組んでいます。
保護者・教職員・地域 様々な取組を通して読書への関心を高めている。



- 設問 23 **保護者・教職員・地域** 教員と学校司書との連携によって授業に必要な参考資料が揃い、学校図書館が「学校情報センター」として機能している。



【肯定回答率 児童 95.8% 保護者等(設問 22)94.6% (設問 23)72.8%】

(昨年度：児童 96.5% 保護者等 92.8%)

読書活動推進は天沼小の重点活動です。皆様からのご要望や期待のお言葉にお応えすべく、教職員、学校司書、学校支援本部の読書活動プロジェクトがしっかりと連携することで、よりよい図書授業を進めていきます。

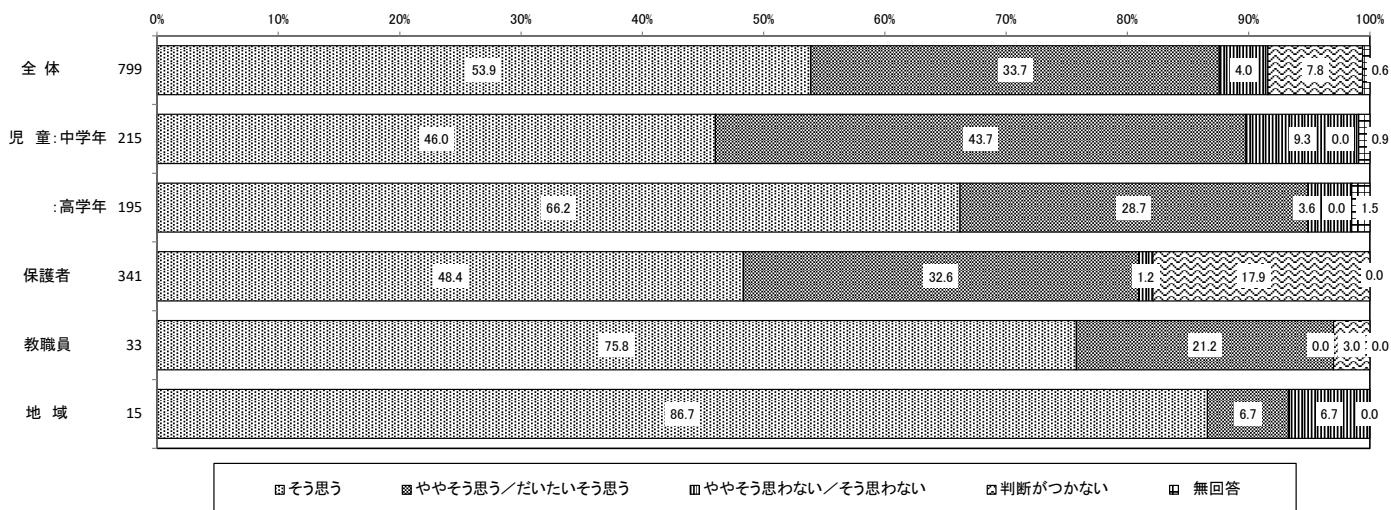
また、図書の授業では、6年間を通じて探求学習、情報教育の指導を行っています。レファレンス、日本十進分類表、著作権などについての学習機会を設けるとともに、学校司書はこうした学習に必要な資料を各教室のブックトラックに並べ、子どもたちが必要な情報にアクセスできる力の育成と、環境作りをしています。今後も、子どもたちが主体的に情報を検索、活用できる能力を高められる指導、環境作りを続けていきます。

来年度、2学期中には学校図書館が2階に移転しスペースも広がる予定です。

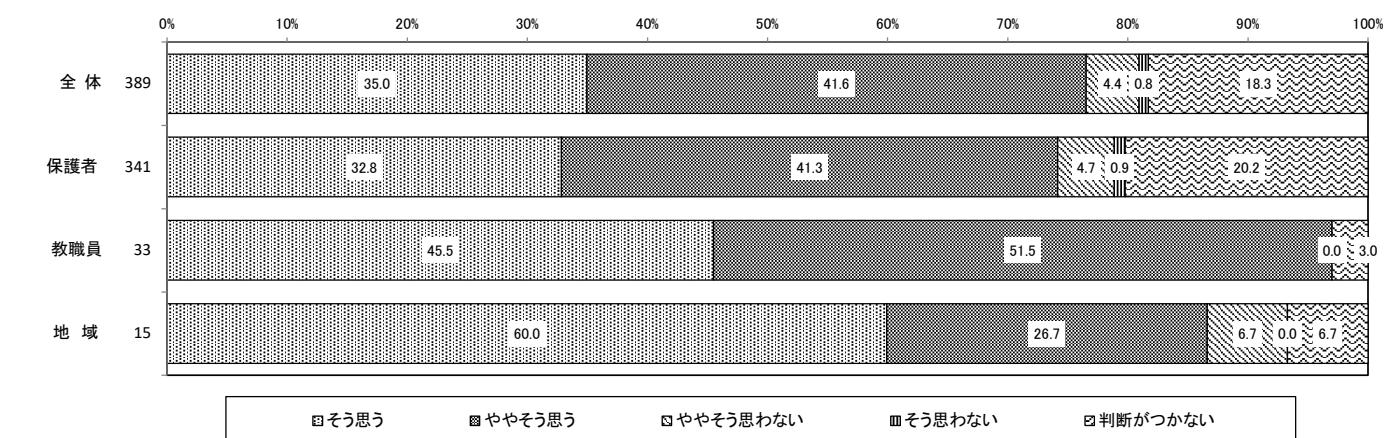
次年度に
向けて

⑬お店番体験（3年）、地域安全マップづくり・障害のある方々との交流授業（4年）、起業体験プログラムAKP（5年）、わたしたちの天沼・裁判傍聴（6年）、手芸・ペットボトルキャッププロジェクト・フェス夕こだま（こだま）の実施

設問 24 **3・4 年生** 町たんけんや地域安全マップ作りを通して、自分が住んでいる地域のことや、人々のことがわかるようになりました。
5・6 年生 「AKP（天沼会社経営プロジェクト）」や「わたしたちの天沼」などの学習は、自分の将来の生き方に役立つと思います。
保護者・教職員・地域 学齢に応じて多彩なキャリア教育を実施している。



設問 25 **保護者・教職員・地域** 設問 24 の活動は将来への夢や希望、自分の得意分野を活かして前向きに生きていく意欲を育むものとなっている。



次年度に
向けて

【肯定回答率 児童 92.2% 保護者等(設問 24)82.8% (設問 25)76.6%】

(昨年度：児童 87.3% 保護者等 85.1%)

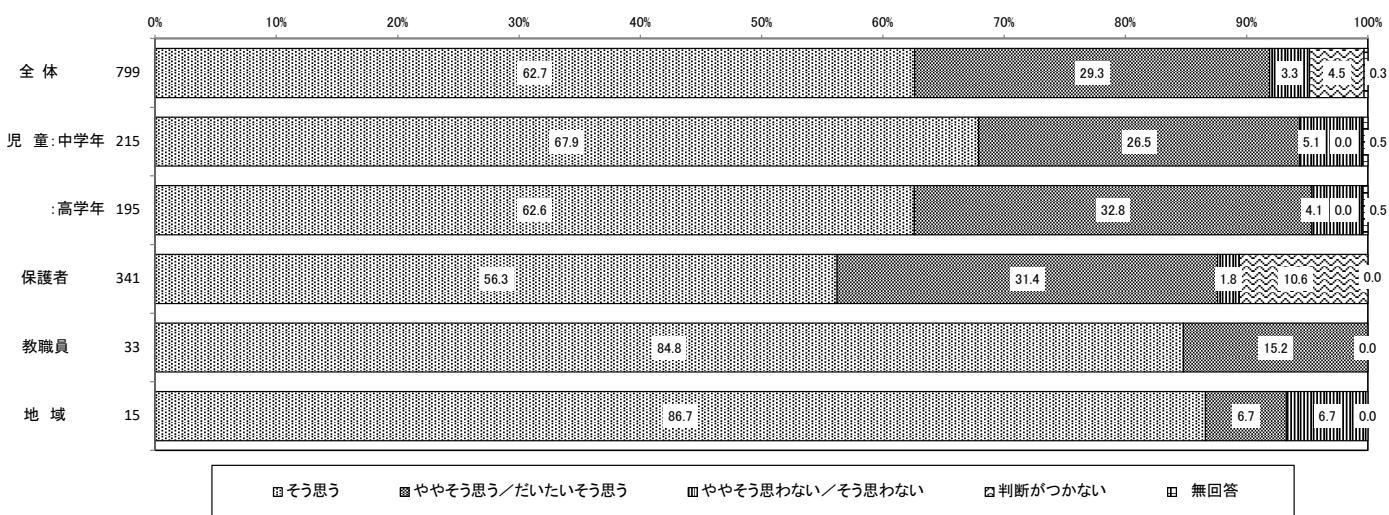
キャリア教育は、新学習指導要領で提唱する「社会に開かれた教育課程」を具現化する学習です。天沼小では学習すべき大切な教育活動と捉えて、学年に応じた内容で取り組んでいます。2年生は「まち探検」、3年生は教会通り商店街での「お店番体験」、4年生は「地域安全マップ作り」「福祉・ユニバーサルデザイン学習」、5年生は起業家体験プログラム「天沼会社経営プロジェクト(AKP)」、6年生は地域の人たちと交流を行う「私たちの天沼」「裁判傍聴」などに取り組んでいます。児童からも一定の評価が得られていることから、今後も天沼小の特色として継続していきます。

⑭日本の伝統・文化を理解する「ほんもの」に触れる多様な文化理解教育の実施

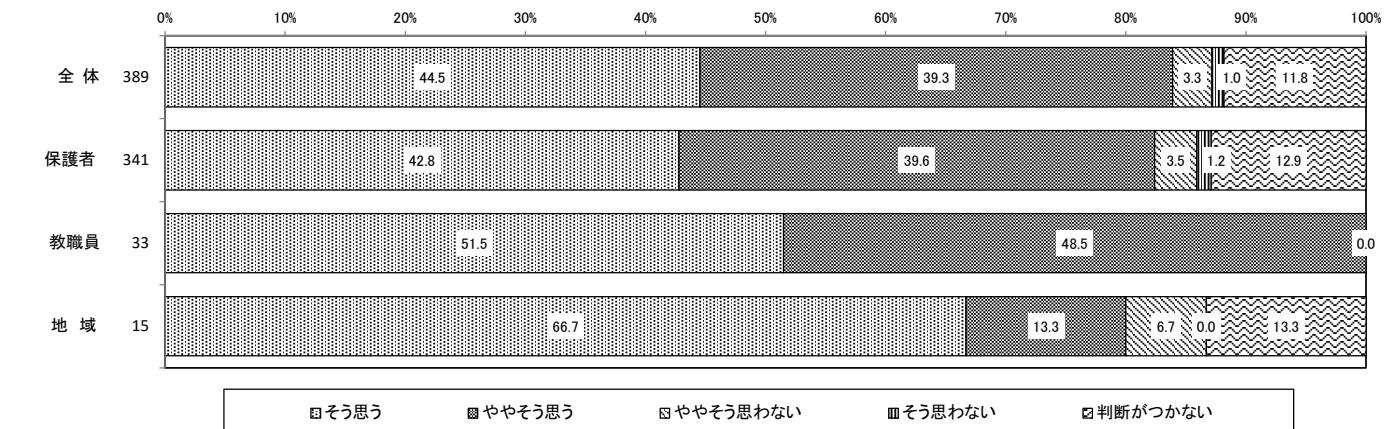
設問 26 3・4年生 百人一首・書道・華道・茶道・筝の体験を通して、日本の伝統・文化にふれることを楽しみにしています。

5・6年生 百人一首、茶道、書道体験などを通し、日本の伝統・文化のよさに気づきました。

保護者・教職員・地域 ゲストティーチャーを招いた「ほんもの」に触れる活動が行われている。



設問 27 保護者・教職員・地域 設問 26 の活動によって、日本の伝統・文化への理解、郷土に対する愛着心や多様な文化への理解が深まっている。



次年度に
向けて

【肯定回答率 児童 94.9% 保護者等(設問 26)88.9% (設問 27)83.8%】

(昨年度: 児童 96.2% 保護者等 87.7%)

地域の専門家をゲストティーチャーとしてお迎えしながら実施し、予定通りの活動を行うことができました。子どもたちの肯定率の高さから、理解を示されている取組と言えます。今後も、日本の伝統・文化に親しみ、日本の良さや多様な文化を理解できる子どもたちを育てるため、学校支援本部と協働しながら取組を進めていきます。

知ってましたか？

天沼小の「特色ある教育活動」について

天沼小学校では学校運営協議会と協議し、以下を「特色ある教育活動」に位置づけています。



人が生きていく上で必要な「人間力」と「文化力」を育てる教育を「不易」の教育活動と捉え、学校支援本部のコーディネートのもと、毎年様々な地域の方にご協力いただきながら活動に取り組んでいます。

①日本伝統・文化理解教育

本物に触れる体験として、茶道・華道・書道・染物・百人一首・折り紙・伝承遊び等を行っています。そこには、グローバル社会になっても、日本の伝統文化を大切にしつつ、海外の文化も理解できる心をもって欲しいとの願いが込められています。

②読書活動

本の世界を紡ぎ出す「素話」や「絵本の読み聞かせ」など、物語に触れる体験とともに、読書に親しむ場を作り、「想像力豊かな人間性」をはぐくんで欲しいとの願いが込められています。

学校支援本部読書活動プロジェクトのメンバーは、毎月「絵本の会」という勉強会を行なながら、子どもたちのために活動をしています。

③キャリア教育

地域とかかわりながら、「社会の一員としての自覚」と、自分の役割を果たす「責任感」を養い、前向きに生きていって欲しいとの願いが込められています。

本書9ページでご紹介した団体の方々はじめ、多くの方々の協力のもと進めています。

天沼小とともに子どもたちをはぐくんでくださる地域の皆さん



杉並区内の主な連携・協働団体のご紹介です。そのほかにも、多くの地域協力者の方々にお世話になっています。

天沼地区町会

- ・天沼一丁目町会
- ・天沼二丁目町会
- ・天沼二丁目三よし会
- ・天沼尚和会
- ・天沼三丁目西町会
- ・天沼三丁目あかるい町会
- ・本天沼西町会

東京青年会議所杉並区委員会

- 教会通り新栄会
- 寿通り商店街
- 荻窪北口商店街
- 白山通り商店街
- 杉並かるた会
- 弁天池公園育て組「荻の会」
- 西友荻窪店

JA 東京杉並グリーンセンター

地域の施設(18か所)

*まちたんけん協力先

あまぬまおやじの会

天沼小学校同窓会

天沼小学校 PTA

など

次年度以降またお世話になります！

⑯ ICT インフラの利活用

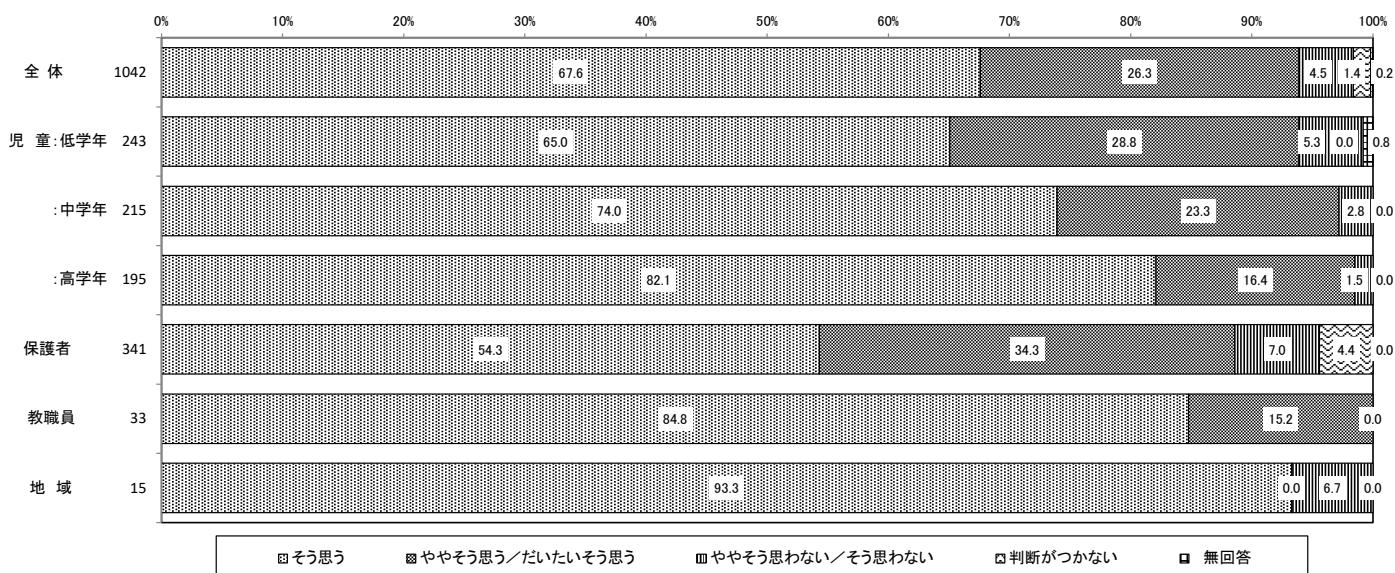
設問 28

1・2 年生 授業において、いろいろなことにタブレットを使っています。

3・4 年生 授業において、いろいろなことにタブレットを使っています。

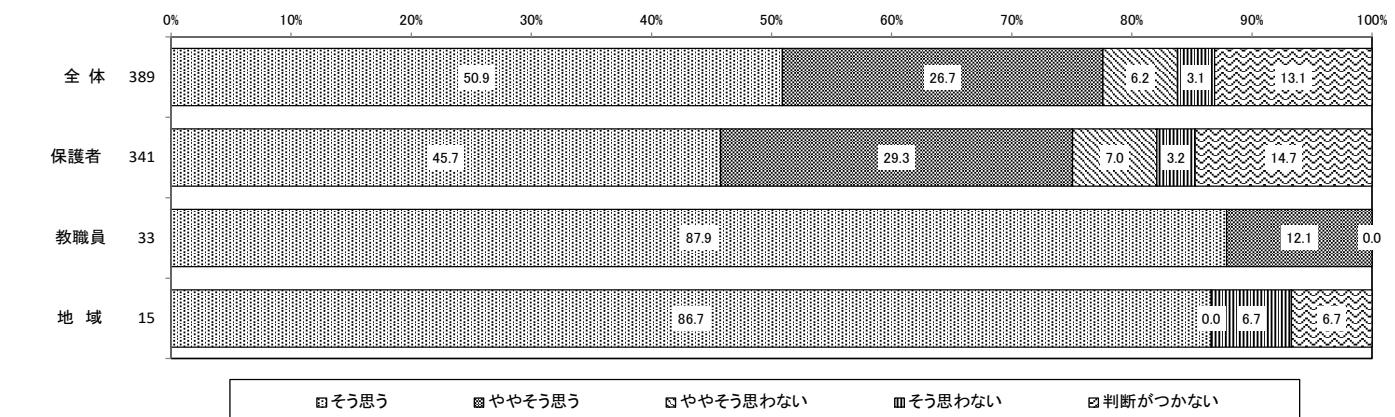
5・6 年生 授業に加え、学校生活の様々な場面でもタブレットを活用しています。

保護者・教職員・地域 デジタル教科書の活用やプログラミング教育の導入等、ICT インフラを積極的に活用した活動が行われている。



設問 29

保護者・教職員・地域 電子黒板やタブレットを、授業の中だけにとどまらず、学校生活の様々な場面において活用している。



次年度に
向けて

【肯定回答率 児童 96.3% 保護者等(設問 28)89.8% (設問 29)77.6%】

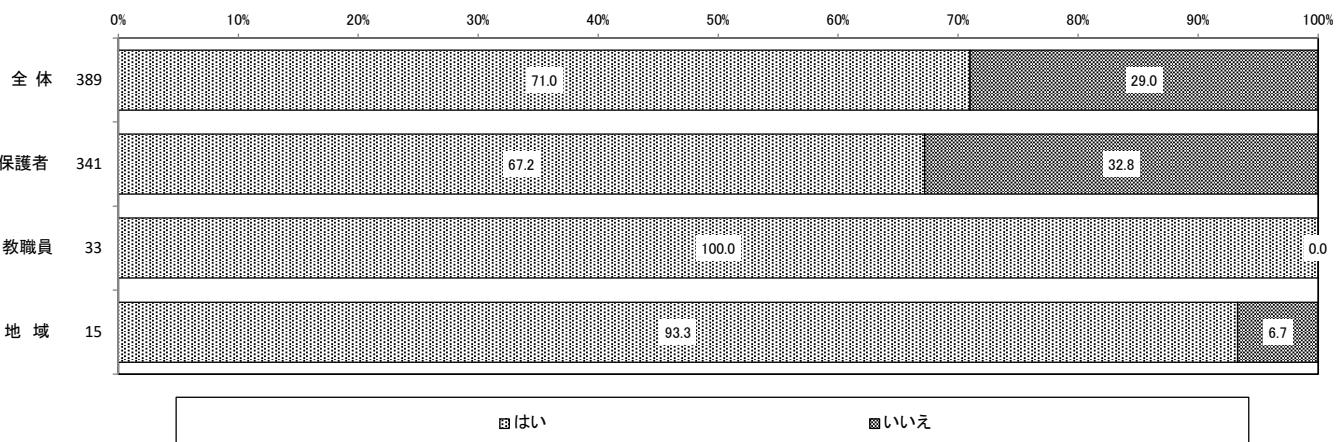
(昨年度：児童 97.0% 保護者等 89.3%)

天沼小では、他校に先駆けて最先端の ICT 環境を導入し学習活動に取り入れてきました。各教科における授業での活用だけでなく、学校行事や委員会活動など、子どもたちはさまざまな場面で日常的にタブレットを活用しています。

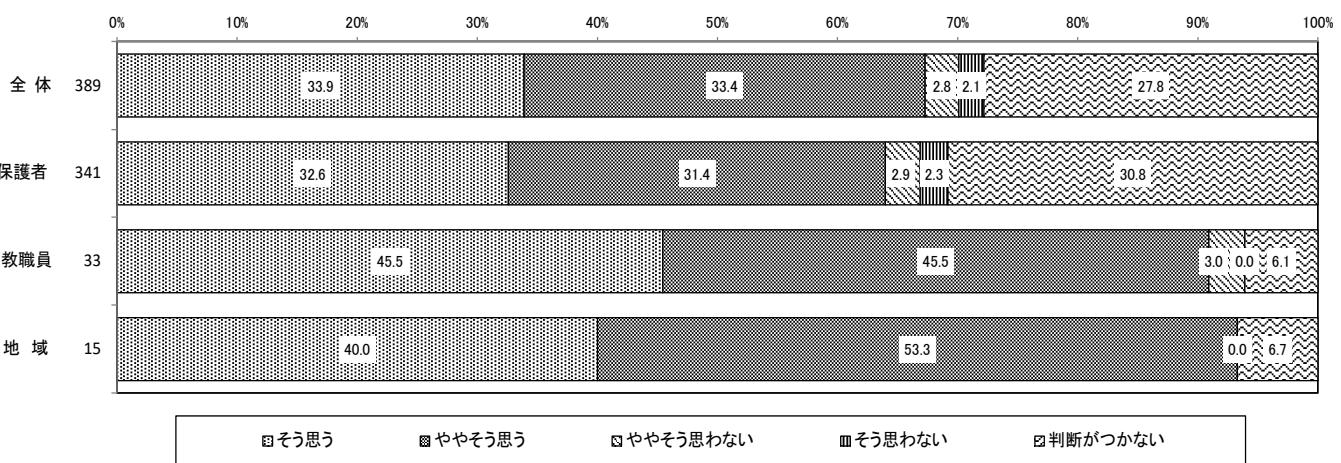
GIGA スクール構想により、全国の学校でほぼ同様の環境が整ってきましたが、これまでに天沼小の子どもたちが獲得した ICT スキルをもとに、今後は児童用デジタル教科書や AI ドリルの導入・活用など、さらに ICT 機器の活用を進めていきます。

⑯天沼中学校区における小中連携教育活動（AKA）の取組

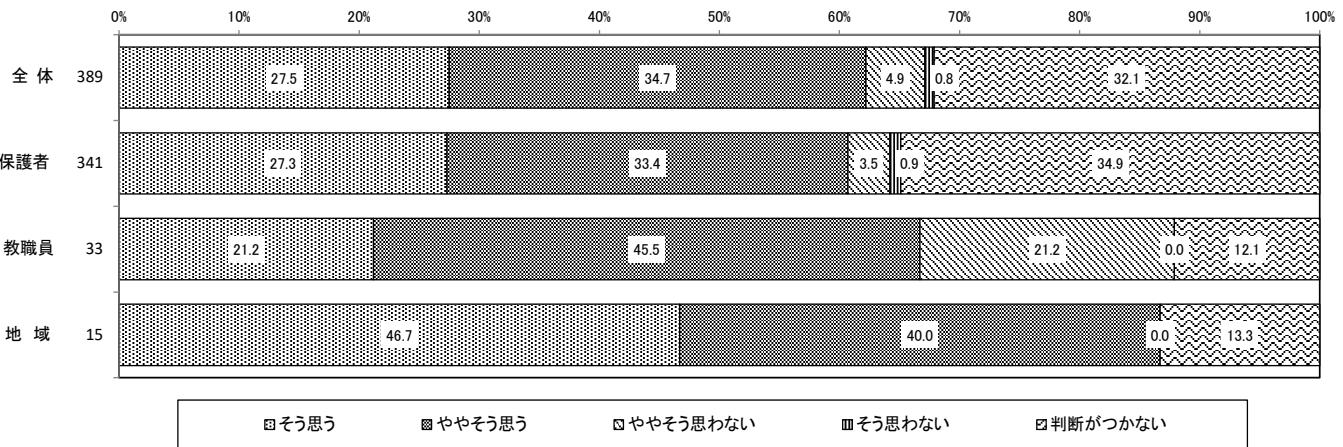
設問 30 **保護者・教職員・地域** 天沼小の児童が、天沼中学校全学年の生徒、沓掛小児童と交流学習を行っていることを知っている。



設問 31 **保護者・教職員・地域** 6年生で実施する天沼中学校での授業体験、部活動体験等は、中学校生活へのイメージを膨らませるのに役立っている。



設問 32 保護者・教職員・地域 3校の教員は合同教員研修によって、情報交換、ノウハウの共有、ICT・情報モラル教育の連携推進等をしており、こうした活動はよりよい教育活動の実現に役立っている。



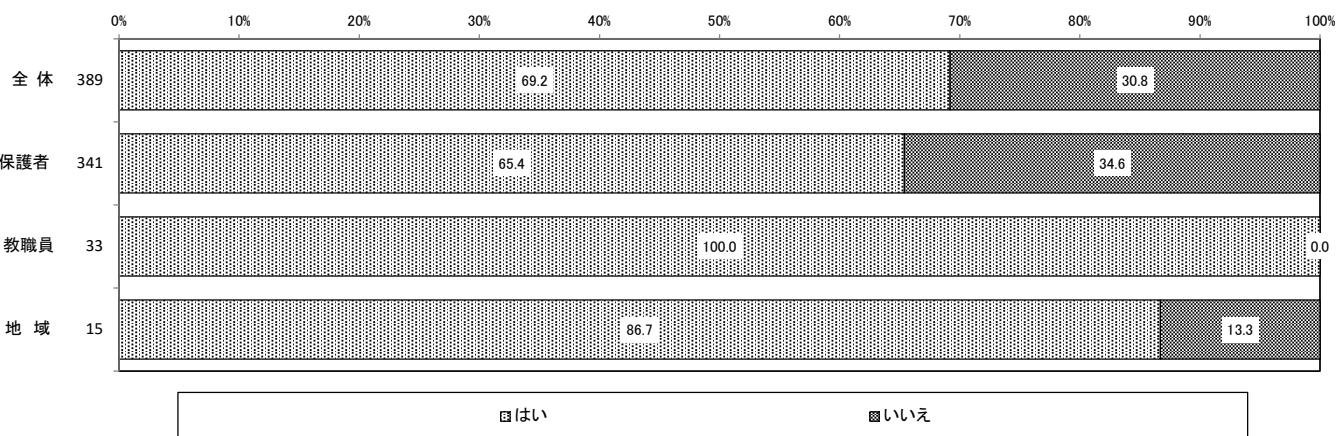
次年度に
向けて

【肯定回答率 保護者等(設問 31)67.3% (設問 32)62.2%】(昨年度実施なし)

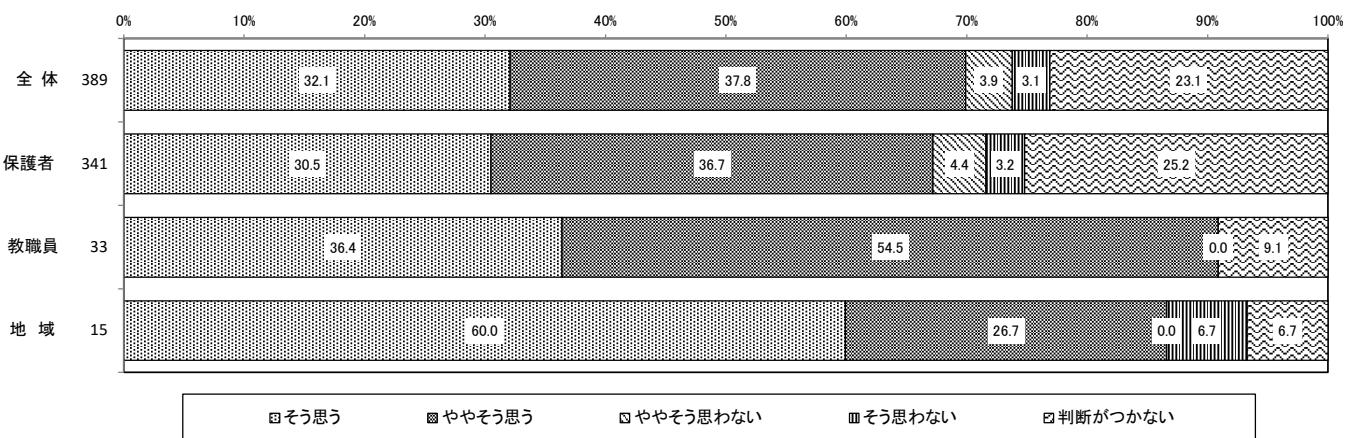
A K A (天沼小・沓掛小・天沼中) は、小中一貫教育に向けて、合同で研修・交流し、情報交換を行うことで、小学校と中学校の円滑な接続を図ることを目的としています。令和3年度は、コロナ禍で授業見学が参観とオンラインのハイブリッド開催になりました。また、1月の交流授業が中止にもなりました。このような状況下でも、各校での授業見学と4回の合同研修会を実施できました。また、小中未来サミット(1月)もオンラインで実施でき、小中連携を図る良い機会となりました。来年度も引き続き、3校の教員が交流し、情報交換と研修を行っていきます。

⑯近隣の幼稚園・保育園と連携した「わくわく交流プロジェクト」の取組

設問 33 保護者・教職員・地域 近隣の幼・保育園児との交流活動（3年生の総合的な学習の時間として実施）が行われていることを知っている。



設問 34 保護者・教職員・地域 設問 34 の活動は、児童にとっては「小1 プロブレム」の解消、児童にとっては自己有用感や責任感などを育むのに役立っている。



次年度に
向けて

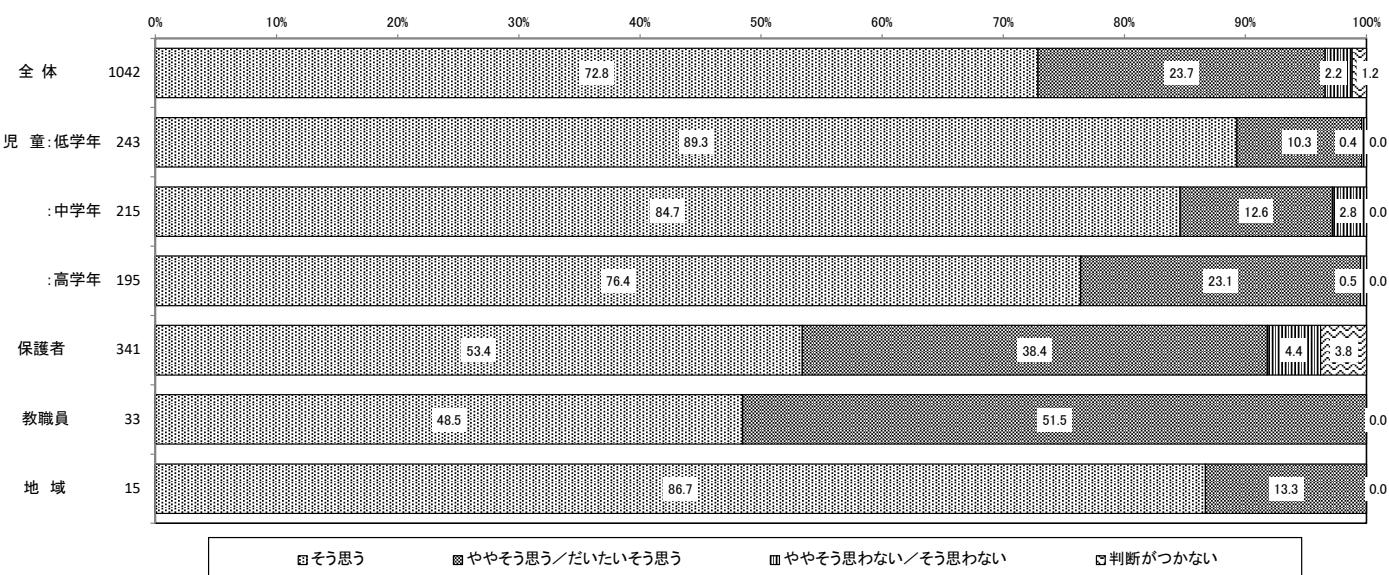
【肯定回答率 保護者等 69.9%】(昨年度実施なし)

例年のように、児童が直接交流を行うことはできませんでしたが、3年生が学校紹介動画を作成して幼稚園、保育園(幼稚園1、保育園8)へ送ったり、就学時健診で動画を流したりして小1からの学校生活を楽しく過ごしてもらえるよう取り組みました。

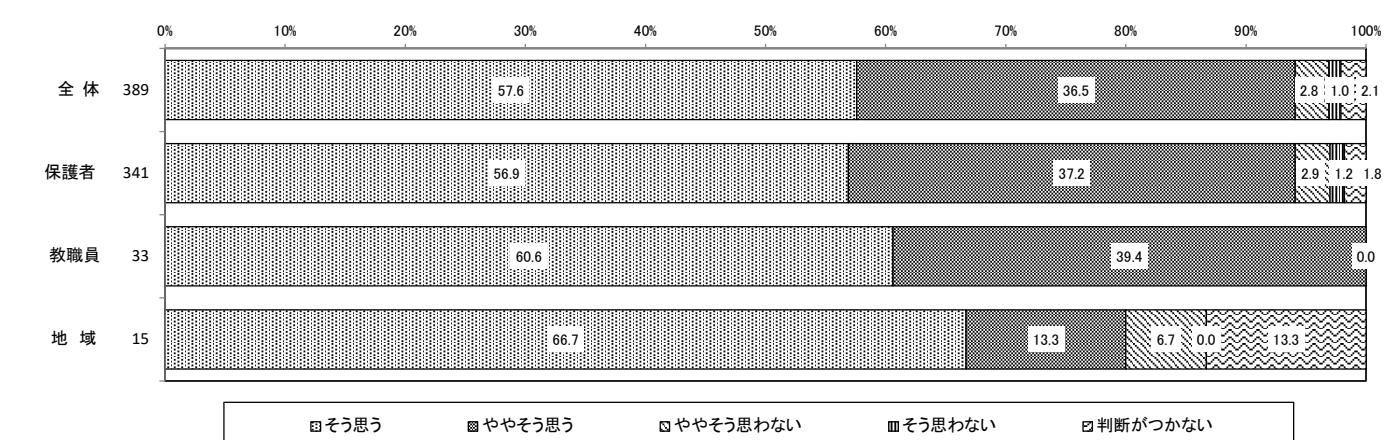
安定した学校運営の実現

⑯学校施設の安全、防犯、防災への取組

- 設問 35 **1・2 年生** ひなんくんれんでは、自分を守る方法を教わっています。
3・4 年生 避難訓練などで、災害の時は自分の身を守る方法を学んでいます。
5・6 年生 避難訓練などで災害の時に自分の身を守る方法を学んでいます。
保護者・教職員・地域 学校施設の安全・防犯・防災設備や仕組みを導入することで、安全の確保に向けた取組が行われている。



- 設問 36 **保護者・教職員・地域** 多様な取組によって、児童が自分で身を守るための能力が育てられている。



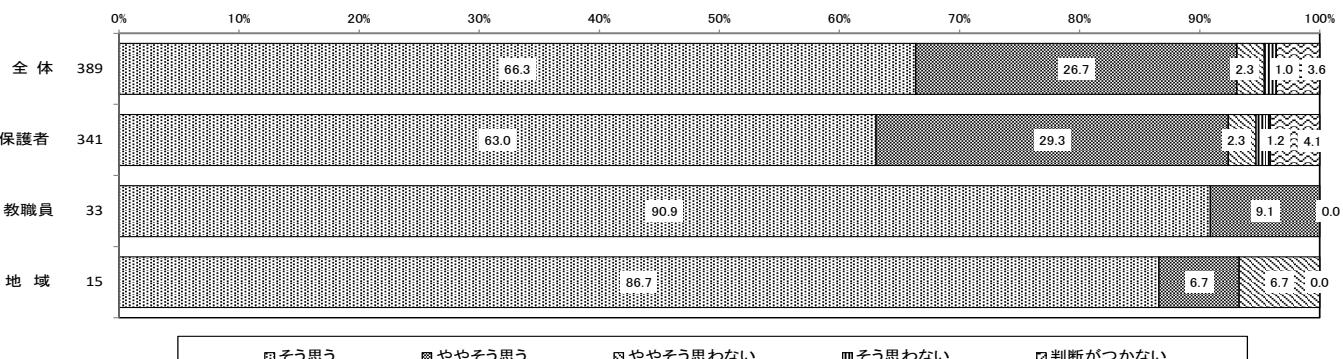
【肯定回答率 児童 98.8% 保護者等(設問 35)92.8% (設問 36)94.1%】
(昨年度：児童 98.9% 保護者等 97.6%)

災害時への備えについて、今年度は外廊下への動線として窓を扉に整備し、避難経路の確保に対応しています。また、天沼中への二次避難訓練を実施しました。今後も階段の通行ルール(右側通行、駆け上がらない、駆け下りない等)を徹底していきます。引き取り訓練はいざという時のために必要な危機管理の取組です。保護者の皆様も積極的に、かつ整然とご参加をお願いいたします。

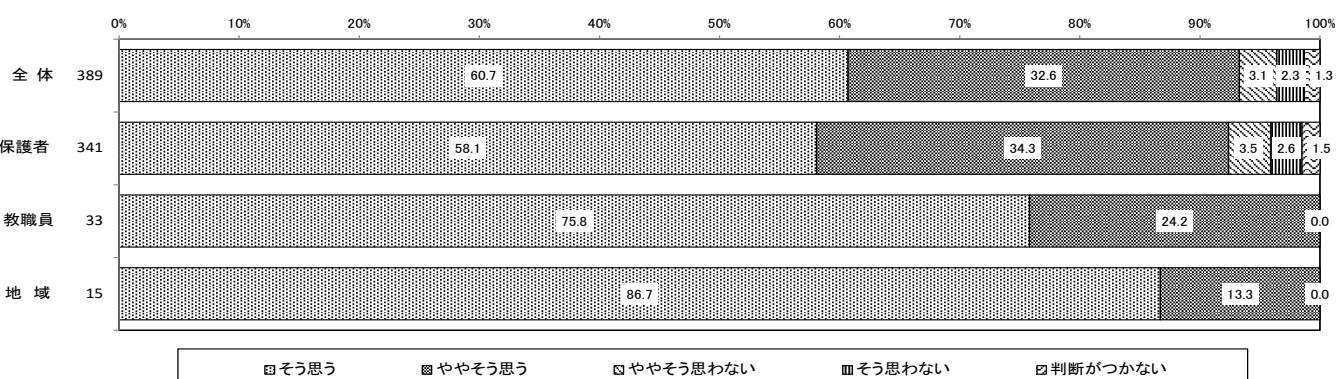
次年度に
向けて

⑯迅速かつ的確な情報の公開・提供

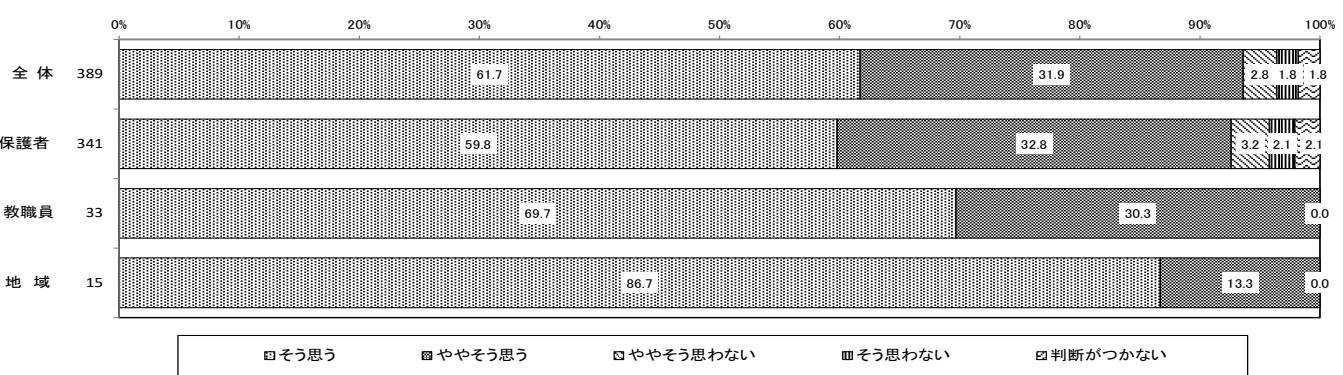
設問 37 保護者・教職員・地域 学校を取り巻く様々な情報が学校ホームページや「校長室だより」で提供されている。



設問 38 保護者・教職員・地域 学校を取り巻く様々な情報が、配布されるお手紙で提供されている。



設問 39 保護者・教職員・地域 緊急メール配信システムの活用などを通して、迅速かつ的確な情報の提供・共有が図られている。



【肯定回答率 保護者等(設問 37)93.0% (設問 38)93.3% (設問 39)93.6%】

(昨年度: 95.7%)

授業公開も行えない中で、ホームページにほぼ毎日更新されている「校長室だより」での配信が学校の様子を知っていただく一番の機会となっています。

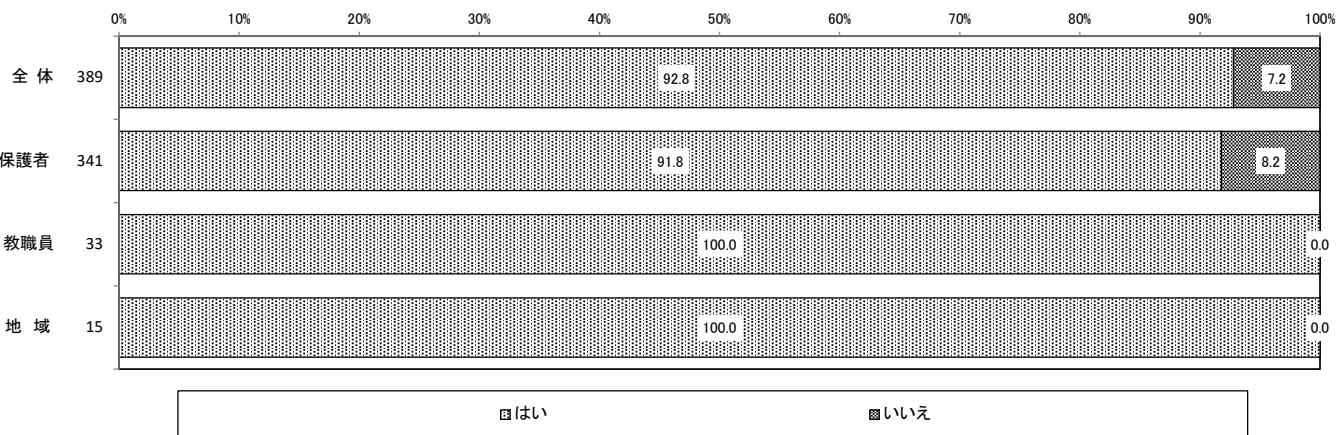
その他、学校・学年・ほけん・給食・図書・カウンセラーだより等、きめ細やかに情報提供を行いますので、お子さんと一緒に見ながらコミュニケーションを取ってください。

今後、一部たよりのホームページ等への掲載も視野に入れますが、お手紙を子どもたちが家で保護者にきちんと渡すこと、またそのための声掛けをしていただくことは、大切な教育だと考えますので、紙面での提供も継続してまいります。

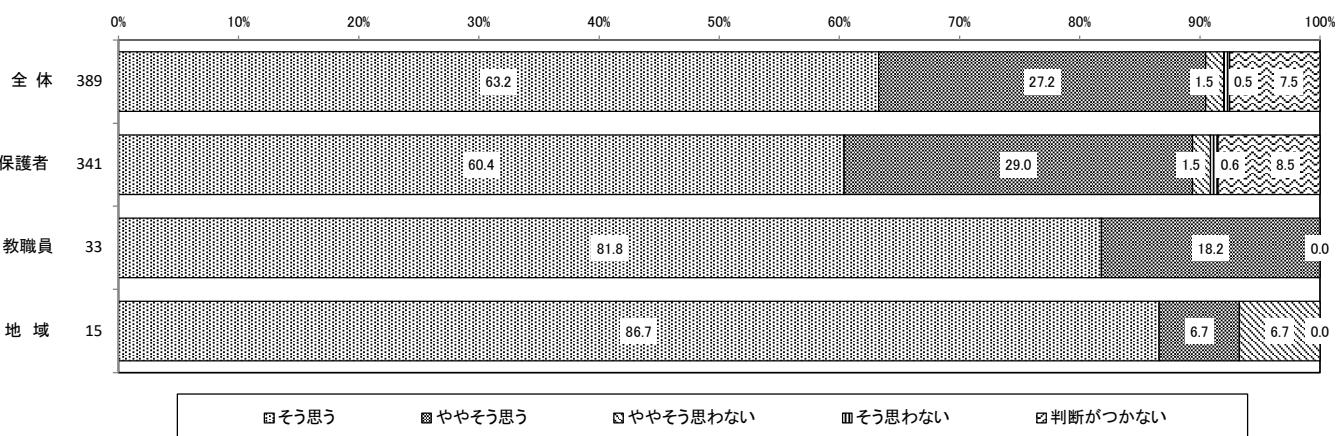
次年度に
向けて

② 学校支援本部（あまぬまワンドラーズ）との協働による教育活動の実施

設問 40 保護者・教職員・地域 天沼小では、学校支援本部（あまぬまワンドラーズ）が、ゲストティーチャー やサポーターのコーディネートをはじめ、遠足等の引率、学習補助、土曜日学校や放課後子ども教室の運営を担っていることを知っている。



設問 41 保護者・教職員・地域 学校支援本部（あまぬまワンドラーズ）との協働によって、地域の力を生かした様々な教育活動が行われていることが、天沼小の特徴的な教育活動となっている。



次年度に
向けて

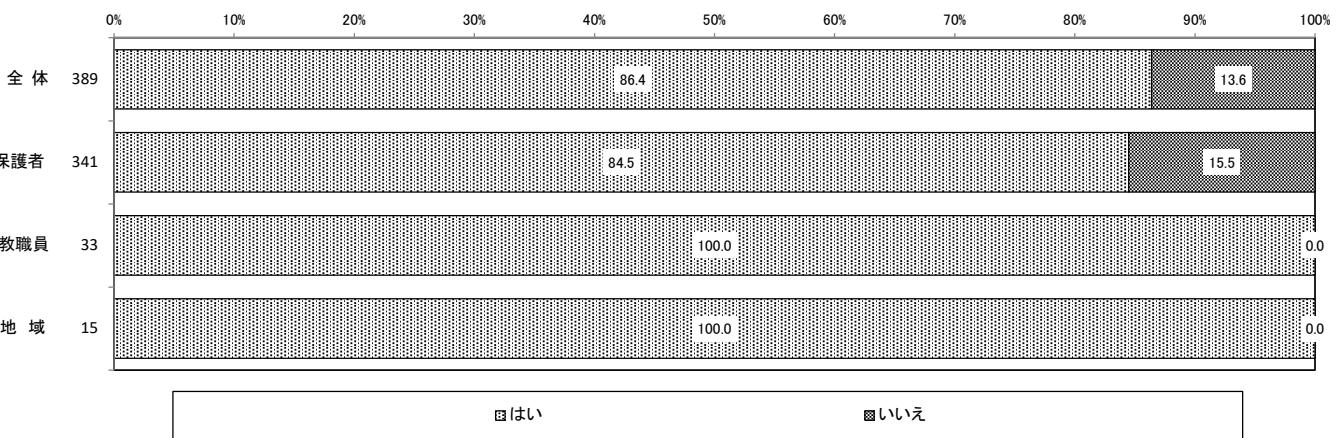
【肯定回答率 保護者等 90.4%】(昨年度：95.2%)

天沼小学校の教育活動において、学校支援本部の存在が欠かせないものとなっていることを改めて感じる結果となりました。

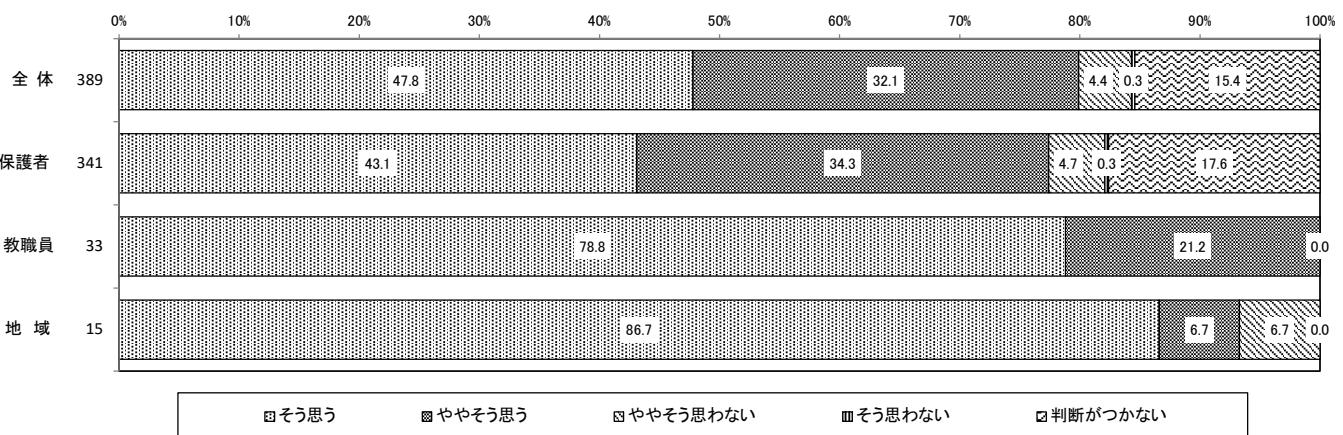
「地域」と「学校」とをつなぐ組織である「学校支援本部」（あまぬまワンドラーズ）によって地域連携を実現させています。例えば、遠足などの学校行事の引率補助や、学習補助、茶道や書道などの専門家のコーディネートなどが学校支援本部を通じて行われています。このように、天沼小では各学習や行事に地域の方々の助力をいただいており、教職員と地域とが一緒になって、レベルの高い学習を実現しています。

②「コミュニティ・スクール（地域運営学校）」としての学校運営

設問 42 保護者・教職員・地域 天沼小が地域住民・保護者・学識経験者等の意見から成る「学校運営協議会」で学校運営を共に考え、協働している「地域運営学校＝コミュニティ・スクール（CS）」であることを知っている。



設問 43 保護者・教職員・地域 天沼小では、「学校評価アンケート」で寄せられた評価・ご意見を生かし、「地域とともににある学校」としての取組を進めている。



次年度に
向けて

【肯定回答率 保護者等 79.9%】(昨年度：83.2%)

天沼小では、様々な意見を学校運営に反映させるために、地域・保護者の代表や学識経験者などで構成された学校運営協議会が設置されており、校長先生とともに学校運営協議会が中心となって、子どもたちが質の高い教育を受けられるよう様々な検討を行っています。このような学校を地域運営学校「コミュニティ・スクール」と言っています。

今回のアンケートでいただいた声を生かし、地域の方々との連携をさらに深めて、子どもたちがさらにレベルの高い教育を受けることができるよう取り組んでまいります。地域・保護者の皆様に、さらなるご理解とご協力をお願いいたします。

「今年度の目標」アンケート結果について

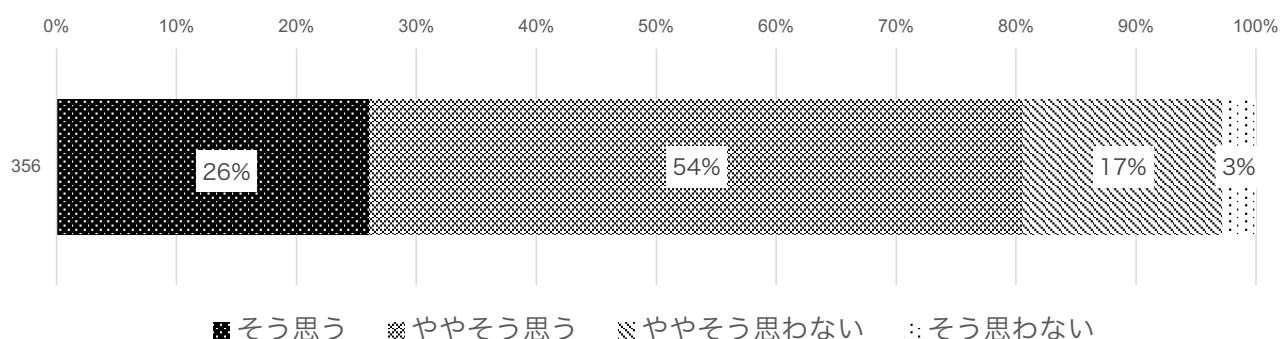


「天沼小学校がめざす教育」(5月発行)において、学校運営協議会から皆様へ以下の目標を提案させていただきました。

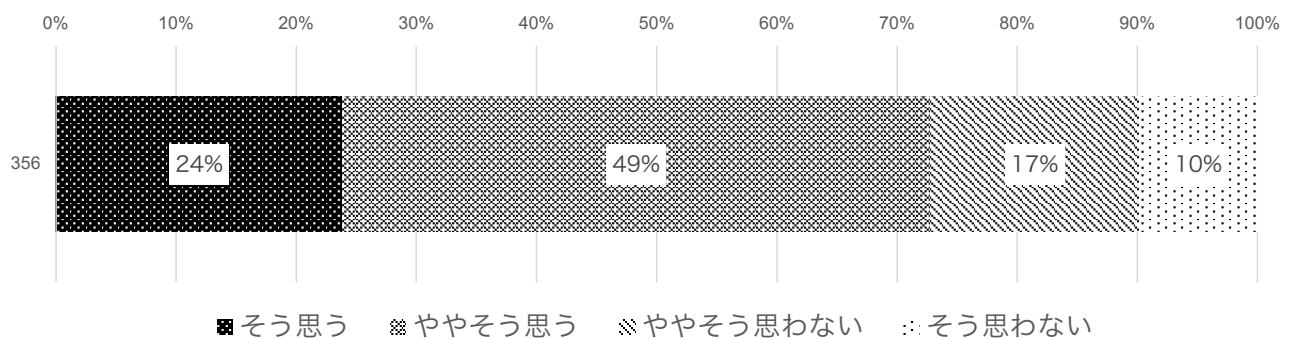
- 低学年「あいさつをしっかりしよう！」
- 中学年「相手のことを思いやろう！」
- 高学年「社会のできごとについて話し合おう！」

年間を通して保護者・地域の皆様にもご協力いただき、その結果は以下の通りになりました。これからもみんなで取り組んでいきましょう。

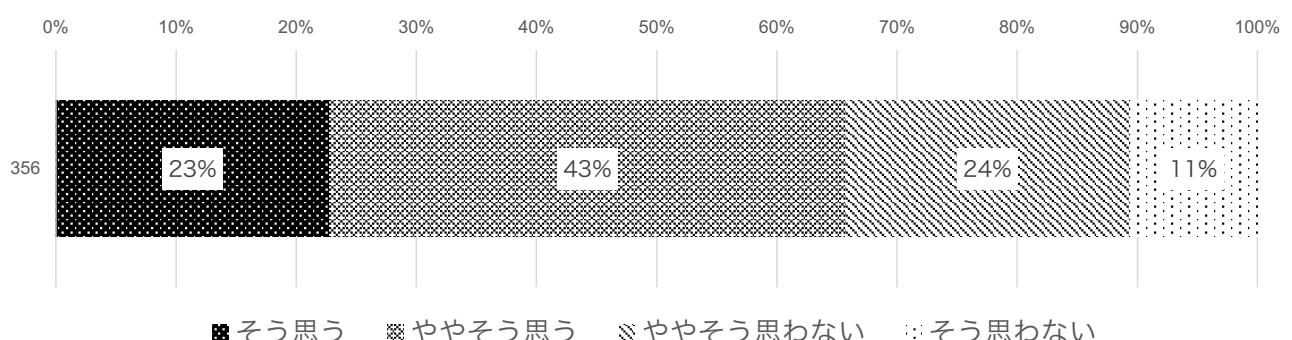
この1年間を通して、お子さんは今年度の目標を達成できていたと思いますか？



この1年間を通して、お子さんに対して今年度の目標を達成しようと働きかけましたか？



この1年間を通して、ご自身が積極的に今年度の目標を達成しようと意識できましたか？



各グループで話し合った主な内容を紹介します。
参考にしていただき、子どもたちを共に育んでいきましょう！



■しっかりあいさつしよう！について

学校

- ・なぜ、あいさつは大切なかを考えさせる機会を設けたい。
- ・あいさつは大切だと指導はしているが、押し付けにならないよう、言い方に気をつけて話をしたい。
- ・あいさつができたということを褒めるということも大事。
- ・子どもたちにとって自然と習慣になっていくように、教員からあいさつする姿を見せるようにする。

保護者

- ・海外の人はあいさつの量が多い。あいさつも握手も、「敵ではない」ということを示そうとしているのだと思った。
- ・社会人は仕事を円滑に進めるうえであいさつは欠かせない。とても大事。
- ・親は子どもの鏡。手本となることが大事。
- ・天沼では、シルバーさんや地域の方々があいさつをしてくださることが多いが、あいさつが返ってこないという話も聞いている。家庭でも、あいさつを返そうと話してみるようにしたい。
- ・あいさつはその日1日を知るバロメーター。体調を知る手掛かりにもなるので、大切にしたい。



地域

- ・子どもは大人の姿を見ている。躊躇せず、こちらから挨拶をしていくようにしよう！

■相手のことを思いやろう！について

学校

- ・言葉などで教えられるものではなく、子ども同士の関わりのなかで身につけていくもの。
- ・子どもたちに話をする際や指示をするときに、前向きな言葉を意識して声をかける。否定から入らず、相手の話を受け入れてから、こちらの意見を言うように心がける。
- ・地域・異学年・異年齢との交流は大事。体験や遊び等を通して、優しい心を育んでいける。

保護者

- ・一人で仕事をし、周りと関わろうとしない社会人もいるが、相手のことを思いながら行なうことが大事。
- ・幼いときから、感謝の気持ちを伝える。「ありがとう」の経験の積み重ねが大事。
- ・家庭ではついつい、きつい言い方をしてしまうこともあるが、相手の気持ちを想像することをより意識して声掛けしたい。
- ・親子で本を読んだりしながら、登場人物の心情などについて話をして、少しずつ感覚を育てたい。

地域

- ・思いやりはとても大切。しかし、外国人と話すなかでは自己主張も必要となる。理解できる年齢になったら、両方を大切にすることも指導する必要があるだろう。



■社会のできごとについて話し合おう！について

学校

- ・学校でのできごとでも良いので「おうちの人と話してみてね」という声掛けをしている（複数の教員から同意見あり）。しかし面談で聞いてみると、案外話していない児童が多い印象。家庭での声掛けがあるとうれしい。
- ・会話の題材となるよう、学級・学年だよりに示したりしているので、それを見て会話を進めて欲しい。
- ・校長室よりも、家庭での会話のきっかけになるよう、各学年のできごとを掲載しているので参考に！

保護者

- ・ニュースを見ながら会話をするのも良い。身近なところから会話が生まれる。
- ・仕事の都合で、あまり子どもと話す時間がないなか、親子で交換日記をしている。書くことは多くなくても、今日あったことを、お互いに伝え合うようにしている。

地域

- ・授業補助に入った時などに声掛けていきたい。また、放課後活動や土曜日学校でも、家庭での話題となるような、また話したくなるような取組を工夫して進めていきたい。